九・十月號發賣禁止

無産階級戰闘雜誌

# 進め

福田狂二編輯

第二年◆十一月◆十一號

進め社

大正十三年十一月一日發行

# 第二年◆進め◆第十一號


『議會』を廻る諸考察……（巻頭言）
社告三つ……

**時論**

小作爭議の白兵戰……布施辰治
無産政黨組織と純勞働者……宮城潮作
次第に増大する産業豫備軍……相馬一郎
朝鮮の同志へ……鄭黑濤

**感想**

わかりきつた一言……松澤兼人

**農村問題勞働問題**

時節柄の會話……高峰庄三
海上勞働問題と無産階級（下）……海野龍平
崩れんとする姿……野田律太
青年店員諸君へ……上西基次郎
△國定忠次（上）……藤江俊夫
病死か致死か――松本源太郎氏の獄死

**批判**

退席問題前後……日下部直哉
社會運動と進化論……原茂陸
『リベツ化の傾向』に就て……岡陽之助

**研究**

議會か××か……石川準十郎
議會行動"於"マルクス主義（二）……久保芳朗
近世社會主義史（三）……春田正

**青年運動**

青年運動の第二期進展……佐藤光敏
青年運動への希望……大路龍一郎
△監獄部屋脱走記（一）……山田靜兒
海老江便り……
編輯室……


## △社告三つ

◇

**發賣禁止** 「進め」九月號發賣禁止され、十月號また發賣禁止さる。敵の重圍に在る身の、かくの如き事は、多く意に介するに足らぬ筈だ。眞理にして嘗て、迫害と侮蔑を被らざるものが一つとしてあつたか。一つもない。僕等もまた、弱者なれども、眞理を世に宣べ傳ふる者、是れ式の迫害に挫けるものではない。百練の鐵、白刃となつて空にさぶを確信するが故に、今、身に喰ひ入るこの傷手も、僕等は、むしろ、微笑して受ける。

◇

されども三萬の讀者諸君。諸君は、僕等の腕に流るゝ血潮に依つて、何ものかを悟つて戴きたい。流るゝ血を拭へとは言はぬ。たゞ傷手を負はされたといふ掩ふべからざる白日の事實によつて、明日一番、願はくば、大いなる教訓を自得して戴きたい。

傷跡は、更に、更に、將來僕等の腕に幾數條乃至幾百條を加へることであらう。流るゝ血を拭つて呉れとは言はぬ。たゞ、この事に依つて何ごとかを悟つて呉れ。（編輯部）

◇

**進め宣傳叢書** 進め社のパンフレット第一輯『青年に與ふ』が發行されるや否や、まつてゐたとばかり發賣禁止を食つた。燃ゆるような眞赤な表紙の、顫る氣持のよい裝訂で諸君の前に再び現はれようとすると此の始末だ。第一輯の目次だけでも書いておかう。或る青年に答ふ（山川均氏）「若き女性へ（山川菊榮氏）「無産階級の青年に與ふ」（岡陽之助氏）「宗教に走らんとする青年へ」（平林初之輔氏）

◇

第二輯は「社會主義と反動主義」（福田狂二述）これは前號で、「反動主義と語る」といふ名で廣告しておいたが、それは、廣告係の間違ひ。これは福田狂二氏が、反動主義者と膝を交へて、頗る平易に社會主義の神髓を說いたものである。同じく無産階級でありながらくだらないブルジョア宣傳のために、社會主義を誤解し、甚しきは徒黨を組んで、民衆のための社會運動を防害するといふ事は、實に殘念な事である。が、素より、無産者であれば、いつかは、その迷盲を悟つて、自ら社會運動に投ずる日が來ることと信ずる。その時は、昨日の反動主義者も、今日の我が同志である。社會主義に反對する人々よ。何卒、此の一卷を讀んで靜かに考へて呉れ。それでも諸君が社會主義が惡いといふならば止むを得ない、其の時は、諸君は、不義橫暴の金持の犬となつて末代までも醜骸を街頭に曝すまでだ。――進め宣傳叢書はいづれも一部十錢税二錢。

◇

今一つ。パンフレットの廣告。これは、進め社のパンフレットではないが、民衆運動社（別の廣告欄を見よ）の新刊で「レーニン會見記」を紹介する。吉田一氏の著。氏は人も知る日本から入露したる最初の勞働者であつて、人物評には特異の眼光を有つと言はれてゐる人だ。氏が、實際にレーニン氏と卓をはさんで、談論風發させたこの會見記は、雜多なレーニン傳には見られぬ意義を含むは言ふ迄もあるまい。因みに序文として、岡陽之助氏が書いた、吉田氏の人物評が載せてある。本文と併せて讀むと頗る興味がある。その上にレーニン氏及び著者の寫眞まで添へて、賑やかな重要なパンフレット。（以上宣傳部）

◇

**青年運動** 本號で、全日本青年同盟の組織に就て、進め社を中心とする同志の間に起草された宣言、綱領、規約を發表する筈であつたが、今月は種々、寄稿家等の原稿輻輳で、そうして又、運動全体の方針及組織形態の考慮等、種々論議し、之れに青年同盟に關する意見、希望、感想等は運動を起す主体者卽ち、地方青年諸君に俟たなければならぬ、と云ふ樣な譯で、名士無名士の意見をも尊重する意味で、今月號は載せ得なかつたのであるが、或る地方青年諸君の間では、早く發表する方がよいと云われてゐるもの、、是れは單なる同人團体ではないので、絶体に個人の意見だけでは總てを處理しない事にしてある。故に青年運動の宣言、綱領、戰術等總てに渡つて主体者の思ふ所を聞き度いと思つてゐるので、本號に青年運動に關する記事は二つしかないけれども、モツト／＼其の方面についての、論文、感想、意見等を載せ度考へてゐる譯だから讀者（運動の主体者）諸君も遠慮なく寄稿を願ひ度 のである。（青年同盟準備委員記）

## 急告

近頃各地に於て進め社員と稱し誌代及廣告料を詐取する者あり、御注意を願ふ

# 『議會』を廻る諸考察

◆極く最近に於いて開かれた總同盟關東大會では、『模擬國會』を催して政治的訓練をなすべしこの案が可決したこ聞く。兎も角「『議會』は問題の中心である。曾て久しくそうであつた如く、現に大いにそうである。將來も亦、普通でも施かれ、猫も杓子も代議士になれ相な見込みのついた場合、『議會』は何等か、一悶着引き起さずには濟むまいこすら思はれる。

◆議會を前にして、最初先づ、二つの考察がなし得る。一つは、言ふ迄もなく所謂パーリアメンタリズムである。議會に席を占め、出來得べくば、議會に絶對多数を占め、その力で、無産階級の利益を含む法律を制定しようこいふのでのである。卽ち、社會改造の希望の全部的信頼を、議會なる機能に托すを以つてその原理こする。さればそれは、自ら議會を信頼するこ共に、一般大衆にもかく信ぜしむるこごが必要條件である勿論、時には、(若しくば始終)議會改良を說くも、それは畢竟、よりよく議會を信頼せしめんこの心願に出發するに過ぎないのである。而してこの主張を抱くもの豈議會の『新人』のみならんやであるからおごろく。

◆他の一つは、議會主義に對する議會否定論である。[illegible]

の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]いふのである。

◆しかし、更に吟味を進めてみるこ、同じく此の議會否定の原理に立脚はしてゐても、同一原理から更に二つの見解が走り出てゐるのに出逢ふ。その一を假りに名づけて議會浸入說こし、他を、徹底否定說こする。

◆その中の徹底否定說は、說明する迄もなく、議會否定の純理を、純理通りに、どこまでも押し進めるのである。實際運動の場合に於いても、少しも、純理を曲げるように見ゆる如き方法を採らぬ。頗る潔癖である。

◆他の一途は之に反し、その壯烈の純理には全く同意ある。併し、少数の同志のみの、かくの如き潔癖が事實に於いて果して、どれだけ議會否定になつてゐるだらうかを疑ひ、むしろ、ブルジョアの機關こ承知の上で、その中に乘り込む方が賢明ではあるまいかこ論ずるのである。乘り込んで、之を出來るだけ利用するに遠慮はいらぬこ論ずるのである。原理こして、議會を否定し、手段こして利用しようこいふのである。此の議會浸入說は、最近、我等の盛んに耳にする『議會利用說』である。この說には、大体に於いて異議のない事は、最近の無產階級の機關紙の大部分に於いて、之を頷くここが出來るであらう。

◆けれども、また、此の議會利用『議會浸入』の主張からも、二通りの、異質の考へ方を摑み出すここが可能であるこ思はれる。而も私は、此の二說に對する考慮は、我國の社會運動をして、單なる改良性のそれに終らしめるか、革命性のそれに直進せしめるかの重大問題こ可成りの交渉を[illegible]つものの樣に考へられるのである。

◆さて、議會利用の一つの途は、誰れも言ふ如く、無產階級の生活向上を意味する法律を可決せしめるのを目的こするものである。卽ちそれはたこへ幾分にても、無產階級の生活を高めようこするのであるから、新法律の制定、舊法律條項の修正若しくは改廢こいふここが、此の運動こしては、第一義であり、主眼であり、また特徵でなければならぬ。從つて勢ひ、それは、パーリアメンタリズムこ何等異ならぬものに墮するの危險が伴ひ勝ちである。私は、此の運動に今日の所、非常な期待を有つだけ、それだけ、その内に潛む改良性化の可能性が目ざわりでならない。

◆最後に、議會利用の他の一途[illegible]は。思ふに、それは、議會なる立法の府をもつて、[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]。これが議會利用の他の一の運動の主眼でなければならぬ。以上の諸件の中、我等は、何れを取捨し、若しくば、何れを如何に併用して運動を進むべきか。ここにも亦、我等の眞面目な考慮の題目がひそんで居るのではなからうか。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

時論

# 小作争議の白兵戰

布施辰治

一

小作争議圓満解決の目的を以て、制定せられたと云ふ、小作調停法來る十二月一日の實施に先だつて、今や全國所在に小作争議の白兵戰が火の手を擧けて居る。

然も、夫れが小作人側から地主側の陣容を張る小作調停法の實施に先手を打つ逆襲を試みて居るのでは無くて、地主側が小作調停法の實施に備へた、小作人側の戰術に怯ねた奇襲だから、可笑しい。其一例に、去る九月十六、七の兩日、新潟縣北蒲原郡長浦村の地主野田三郎、小川正英の二人は、新潟地方裁判所新發田支部、大正十三年に第二十四、五號の有体動産假差押への決定に依りて、小作人高橋幸作外四十名に對する立稻の假差押へを断行して、危ぶく血の雨を降らさんとした白兵戰があつた、多數の小作人が手に〳〵刈入れの鎌を持つ眞只中で飽迄立毛の假差押へを断行するとしたら、恐らくどんな慘事を出來したかも知れない當時の光景は、眞に沈痛悲愴の物凄さを極めたと云ふ事である。

今や、全國所在に白兵戰の火の手を擧けて居る、小作争議の猛烈さは、地方新聞の多くが、地主側の爲の默殺と中央へのニュースが遲れる爲めに、近縣の小作争議が、偶々識者の注意を惹く丈けで、未だ社會の耳目を聳動する迄には至つて居らないが、一度地主側が小作人側の小作調停法實施に備へた戰術を奇襲して居る小作争議白兵戰の實狀を知つたら、何人と云へども、飽迄强慾な地主共の金を取る爲めには、人の首を絞むる事を何んとも思はない、强盗殺人的慘忍を憤らざるものはあるまい。

二

前掲の一例に就て、私の知つて居る所を簡單に註解して見ると、日本米産國越後として、更に日本の大地主縣として知られた、新潟の小作争議は、地主側の牛耳を取つて居る政友系の多額議員佐藤友左衛門氏が、全國の地主を代表して戰ふつもりだと傲語して居る丈けあつて、其の戰術の兇暴さ辛辣さに於て、代表的なものがある。しかし、小作人側の戰術も又、眞に階級闘争の精神に徹底した團結の强固さと、巧妙さに於て其の代表的たる事を任じて居るだから勢ひ小作争議白兵戰の火の手も擧がるであらう。其處で小作料の減免と産米改良費の補給とを要求した、裁判上裁判外に於ける新潟縣下小作争議の對峙、短きも二年、長きは四年に及んだ持久戰の陣容は、先づ地主側が小作料の不納に惱む糧道断絶に疲れて、切りに司法官憲の援護を求めた〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇、昨年は、先づ將を仆さんとするものは馬を射よの兵法で小作人側の家族を脅かすべく、老人子供乃至は花嫁の着物などに對する假差押へを断行して、小作人側の陣容を紊さうとした、けれどもサスがに小作争議の陣頭に立つて居るもの丶家族丈けあつて、そんな事には驚かなかつた、其處で今春は、マサに藩種の趾を入れんとする苗代時に、耕作禁止の假處分を断行し、態と小作人等の屋敷廻りに（一）本田地は執達吏之を占有す（二）執達吏の許可なくして本田地に立入る事を禁ず（三）犯した者は刑罰に處せらるべしと云ふ高札を立て丶地主には官憲と共同戰線を張る援護があつて斯ふした奇襲が出來るのだ如何に團結の强固と戰術の巧妙とを頼む小作人側と云へども斯ふした奇襲には、手も足も出まいと云ふ兇暴高壓の辛辣な戰術に出でたが、苟くも、一度び争議の陣を進めた小作人側は、地主側の如何なる兇暴な戰術にも、豫め覺悟する所があつたので、即座の應戰に依る耕作禁止の假處分は大した面倒も無く、解除せられ、小作人等は依然愛する土地の耕作に從事して、秋の收穫の豐穰に勞苦の努力を捧け得たのである。

三

斯くして、小作人等が今春の耕作に着手せんとする際には、耕作禁止の假處分に遭ひ辛くも夫れを突破して、血を絞る如うな金肥の投下と、營々役々の勞苦に風を侵かし雨を厭ふて今や一年の收穫を酬ひられんとして居るのが小作人側現在の陣容である。其處へ飽迄慾の皮が突つ張つて、且つ戰術の兇暴辛辣を誇る地主側は、一度び小作人等が刈入れたる、最後の小作料不納に手も足も出でまじき事を恐れた持久戰の疲憊に最後の突撃的奇襲を試みたのが、即ち今度の立毛假差押へであつた實を云ふと、假差押へは讀んで字の如く、假差押へであつて、如何に地主の依頼した執

遂吏が、之れを假差押へしようさ、着物や現金を假差押へしようさ、假差押へしたものが直接地主の手に這入つて、彼等の自由な處分や、使用を許さる譯のものでは無い。故に地主側の立毛假差押へは、元より小作爭議の衝點に爲つて居る。小作料卽座の收納を目的こしたものでは無くて、小作人側の陣容に恐怖の一彈を放つ脅威の戰術に過ないのだ故に、何處迄ち落付いた小作人側の對抗戰術こしては、尚も應戰の策に困らない、こ稱した地主側の兇暴辛辣なやり方に對して、直ちに血雨慘風横に漲つる此の直接對抗を要しない。

四

小作人側こしては、立派な合法的對抗の戰術があるのであつて、先づ第一に地主側が小作人側陣容に、恐怖の一彈を放つ假差押へは權利の濫用こして絕對に許さるべきものでは無い。第二に立毛の假差押へは、本訴確定迄の現狀保管を原則さする被差押への本質こ、立毛の假差押へは、斷じて現狀の保管を許さる丶性質のものなる點から觀て、民訴第五百六十八條「果實はまだ土地より離れざる前こ雖ち之を差押ゆる事を得然れごも其の差押ゆは通常の成熟時期の前一ヶ月內に非ざれば之を爲すこを得ず」の規定は、本差押へこ假差押への場合に其の適用を異にすべき實際生活適應の法律解釋に基く、假差押への解除を求むる方法ちあるこ信ずる。更に保證金を積むか、又は小作人側から換價處分を求めて競落する方法もあれば、執達吏保管の儘の耕作刈入れを小作人側が請負ふて、假差押へを受けた損害を最後の決算の賠償に求むる事も出來るのであるから、小作人側の冷靜沈着な對抗戰術こしては、實際何の狼狽する處も無い。詳說はしないが斯く迄硏究せられた小作人側の戰術は、小作調停法の實施に備へて、尚ほ一層の巧妙を盡々くし得るのである事が、地主側に取つては折角地主側の陣容を張つて吳れる小作調停法は、只だ徒らに爭議の戰線を擴げる丈けで些かも地主側の勝利を確かむる强味が無い、寧ろ愈小作調停法が實施せられてからは、辛辣兇暴な法律惡用の奇襲を司法官憲に求むる事が出來なく爲るのを恐れた立毛の假差押へが地主側から奇襲を企て丶全國所在に小作爭議白兵戰の火の手を揚げて居るのである。

斯うしたイキサツを有する地主側の立毛假差押へに應戰する小作人側の對抗は、必ずしも、冷靜な理論通りにばかり行かない、相手に對する感情があり、物に對する愛着がある。

卽ち、今春の耕作に着手せんこしては、耕作禁止の假處分に遭ひ、辛くも夫れを突破して、血の出る如うな金肥の投下こ、營々役々一年の勞苦に風を厭ひ雨を侵した耕作に酬ゐられんこする秋の收穫を目の前に稻穗の實り工合さへもナデて見る事を許されない假差押への斷行に稻の株は折れ腐れ、稻穗が萠ね朽ちる無慘な光景を見た、小作人の悲憤こ激情こは、果してごんなだらうかを想察するに堪へない。私は小作爭議の成り行きが斯く迄深刻に地主側の戰術が兇暴辛辣を極めた、白兵戰の猛烈さが軈て社會の耳目を聳動する時があるであらう事を恐れる。

# 無產政黨組織こ
# 純勞働者の覺悟

宮城潮作

吾等勞働者の上に政黨なるものゝ生れる事は社會の推移こして是非ない事だが苟くも政黨組織を以て勞働者解放乃至向上的進展の唯一の羅針盤であるこ斷ずる事は組織そのものを無視するの甚だしき僻見であるこ信ずる。政黨の目的は政權の掌握にある、ダイヤモンドの如く輝く主義綱領も政權掌握の後ならではその眞光は認められないのが議會政治の特長である、政權掌握は多數黨卽ち議席の獲得數如何に歸着する、故に絹帽を冠つたペンギン鳥を多く孵化する事に依つて主義綱領は徹底の一階段へ歩を進める事になる。『急進ブルジョアに墜落せざる範圍』こ言ふ事を何處かで一寸耳にしたがこの調子で行進すればペンギン鳥は孵化の見込みがある。而して此目的の爲めの手段は何んこ云つても普通選擧の促進だが『急進ブルジョア』は今血眼になつて『穩健プロレタリアに墮落せざる範圍』で具體案の作成をやつてゐる。普選の條件が、如何程のレベルかそれは今明かでないにせよ、ブルがプロの向上發展を歡迎しない事は分り切つてはゐないだらうか。生れんこする無產政黨は今此斷崖絕壁の彼岸より所謂急進ブルが手を取つて迎へんこしてゐるのだ。それは無產大衆の力に依つて斯く爲さしめたる他動的出來事ではあるが(又一面より見れば老猾なるブルジョアの自動的手段こも見ゐる)如何にしても吾等は普選こ云ふ奇怪極まる手を振り切つては立憲治下に生れんこする無產政黨の價値は無意味こならなければならない勞資の直接行動は卽ち爭



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

議である爭議に依る收穫は壓迫と犧牲の副産物をも收穫し却つて副産物を多量に收穫して了つた。その背面攻擊に出たのが政治行動であると思ふ世人曰く「勞働運動も政治的に進歩して來た」と、吾等は政治行動を以て經濟的直接行動より進步發達した戰術だとは如何にしても思はれない。「直接より間接へ」而して「間接より直接へ」と廻り歸つて始めて無産政黨の意義は鮮きり初める。血路を開くべく方向轉換に過ぎないのではなからうか。かくて無産政黨は凡ゆる勞働者を一團として政海の波に投ずべく新しき犧牲と壓迫を受くるに至る。此處に於て勞働政治家と純勞働者とは必然的に』その分擔を異にする譯である。「內外相呼應する」これは實に美しき行き方である。然し、英國勞働黨內閣がキャンベル事件で議會を解散し信任を國民に問ふたあの出來事の結果英國の非勞働政治家が或る暗示を受けなかつたとすれば英國の資本主義は徹底力を有してゐると云へる。例へば重なる一票を勞働黨に入れるとした處で！國民の信任を背負つて再び桂冠した處で！あの事件に依つて就中勞働者が大なる暗示を感受しなかつたとすれば、それは最早急進ブルに墮落したのである。吾等は此意味を徹底せしむるに最も好手段として第二黨なるものを熱望するのである。政治の濟終の美は同一方面に於ける二以上の同志の、戰に依つて爲されるのだ。英國に第二勞働黨の出現のない限りはマクドナルド氏の眞意の那邊にあるかは測定する事は難いであらう。眞摯なる吾等が兄弟たる純勞働者諸君よ、吾等は先づ先發たる一黨を送つて、靜かに凝視をせうではないか、而して若しも不鮮明な灰色として！廻れ右をして！廻つた儘行衞不明となつた時！直ちに第二黨を送らなければならない。吾等は立憲治下に於ける吾等の生活が政黨の力に依つて如何程迄に進展して行くかを見る事は面白い問題だ若も時來りて勞働黨の天下となつた時、和製キャンベル事件のあつた時（ある樣な氣がするぞ）第三黨も送るべく大なる覺悟を持つて目下の政黨組織に臨まなければならないと思ふのである。

# 次第に增大する 產業豫備軍

相馬一郎

失業は資本主義社會の必然的所産である。利潤を得る事を第一眼目とする現經濟組織の下に於ては、より新しい進步せる機械の採用に依りて生産費を低下せしめねばならぬ新しい機械の出現——その度毎にこの新機械に壓出された勞働者は街頭に吐き出される。

資本主義が、なほ發達の道程を辿りつゝあつた時、これ等失業者は、新企業に吸收されて行つたが、もはや八方塞がりの資本主義は街頭に渦を巻く失業の流れを新企業の海に導く術を失つて了つた。

小資本の鰯、大資本の鯨に呑まるこれ資本主義經濟の憲法である。かくて昨日の小資本家は今日の勞働生活者に變り、今日のプチ、ブルジョアは明日の勞働者たるの運命を負ふてゐる。水呑み百姓は泥水すらも呑み得ぬ苦境を脫して都市へ雪崩れ込む。

失業の漣波は、遂ひに、大波濤となつて、資本の巖頭を打つて廻る。

勞働力を賣ることによつて、辛うじてその日その日を生きて行く勞働者にとつては、職のない事は食のないことを意味する。

如何に働かんとする意志があつても、如何にせんやだ。人間の意志より獨立したものが人間の存在を決定する。勞働者は働かんとする意志の所有者であつても、働く條件——生産機關の所有者ではないのだ。失業は、勞働者の責任ではないのだ。資本主義經濟の必然的産物である。資本家の財産管理人たる政府の責任であるのだ。

失業者救濟は政府の眞劍にやらねばならぬ事業である。政府の手になる職業紹介所は全國的に設置されて、天晴れその責任振りを發揮した如くに見へる。

しかし、彼等の事業は、一種の慈善事業の如きものだ。民衆を瞞着せんとする狡猾な仕打である。失業は勞働者の罪であつて、これを恩惠的に救濟してやるといふ憎むべき欺瞞策である。

失業者救濟の唯一絕對の方法は、失業者の働き得る仕事を造ることである。仕事さへあれば、何も頭を下げて一日歩き廻つて職業紹介所などのお世話にならないのだ。自分自ら雇主と交涉するのだ。

それを、就職する口がないために失業してゐる者の爲めに、「職業紹介所」を千造らうが萬設置しやうが何にならうか。

失業者を就職せしむる事業を起すことだ「職業紹介所」かもし必要ならば、それからの事だ。

繰返して言ふ樣だが紹介口なくして、就職口なくして失業してゐる勞働者を「紹介所」

設置して、一体、何處へ紹介をするつもりなのか。

彼等の行爲が如何に欺瞞に充ちて居て、如何に賤に（食に）餓ゑた民衆を馬鹿にしてゐるかを暴露してゐる。

失業者の存在は、全勞働階級の生活を脅かす重荷である。

産業豫備軍の動員令は資本階級掌中にある。『安い賃金にも不平を言ふな、お代りは幾らもあるぞ、』右手に酷使の鞭を振ひ、左手に豫備軍動員のラッパを握つて資本階級は益々勞働階級を太い幾重もの鐵鎖に縛る。

勞働組合か紹介事業をやることもよからうが、その効果のない事、官設紹介所以上である。

私は、むしろ、昨年三月芝公園に失業者大會を開いて、失業の責任は資本家政府にありと叫んで、群衆に憤怒の眼を向くべき方向を與へた、あゝした催しに大きい意義を見出だすものである。

失業の救濟は失業者に働き得る仕事を與へることである。が、それは、行詰まつた現社會に望んでも無駄である。失業の現象に對する我々の態度は、こゝに於て、…………

…………

…………

…………。

…………

…………

…………

…………。

我々は失業に依つて來る原因こその當然の責任を明かに民衆に示さねばならぬ。

そして、國民てふ一語をもつて民衆を欺き來つた支配階級國家の正体を〇〇しなければならぬ。失業は、失業せる者自身の問題であるばかりではなく、勞働階級全体の問題である。勞働組合は、この問題を提げて政府に肉迫すべきである。しかし、この擧に依つて飢たものゝ腹はふくれはしないことは知りきつた事だ。我々は、かくすることに依つて失業の責任こその發生の原因を明かにし、…………

…………

…………

…………

…………

…………

…………。

失業者問題を放置することは、味方の陣營を宿命的怯惰にみちびきルンペン、プロの無氣力が戰士の魂を誘惑する事になる。

失業者問題は、勞働階級にとつては、眞劍な、食ふか食はぬかの問題である。

されば、そこに、階級戰に於ての重要性を持つ。

滔々と激増し狂奔する失業の波濤を〇〇せしめよ！。

## ‖朝鮮の同志に‖

鄭　黒　濤

朝鮮に於ける社會主義は極く短い歴史を持つが、燎原火の如く擴展するは之當て他國にて見たる例は、恐らく稀であらう。雨後の筍の如く…………

…………

…………

…………

…………

…………

…………

…………

…………

…………

…………

…………

…………

…………

…………

…………

…………

…………

…………

…………。

…………

都會にのみ集中して、社會主義の理想を說き、資本主義の〇〇〇〇を語るばかりではならぬ。大麥一掬こ大豆の葉さを入れ混ぜ粥を作つて飲み啜んご餓死を見るばかりにして…………

…………

…………へ入らうよ。僕は決して、所々にある小作組合や勞働組合を無視し、又は無力を言ふにあらず。寧ろ日々に生れたつる組合を見て湧き出づる歡喜を歌へ得ざるのみ。然れど朝鮮の組合は未だ全般的に說かれたるにあらざるを遺憾に思つて言ふのだ。

僕は屢々農民や勞働者に逢ふの機會有る毎に聞くに社會主義者は盗賊或は所謂過激派なるものにして專横殺戮を、恣にする徒輩の如く言へり之何んぞや。我れ等の努力の足らざるを雄辯に物語るにあらずや？。そしてブルジョアの悪辣な宣傳が、此處までも行き屆いてゐるを思ふ時、吾人は實に痛嘆に堪へない。我等は反動の渦く水を踏み分けて我等の身を賭してまでも農民や勞働者に臨まう。そして彼等に社會主義を理解せしめ、純眞善良な彼等が胸に住み乍ら踊らう。

要するに社會主義思想を以て我等のみ占有すること無く共有思想たらしめなければならない。社會主義が共有思想になつてこそ始めて力になり得るのだ。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 感想

# わかり切つた一言

松澤兼人

(一)

階級の對立は必然である。既に彼らが、現在の經濟機關を自己の掌中に把握せる以上、その上層建築である、教育、政治、宗教、その他の一般社會機關が、彼らによつて牽制せらるのは當然のことである。この意味に於て、我々は、彼らが綱紀の肅清、諸制改革などの叫びを如何になすとも之れを信ずることが、出來ない。何故ならば資本主義の政治代辯者、宗教代辯者又は教育代辯者は、その根本の經濟的構造を左右する力を有する有產階級に對しては何ら根本的反抗をなすことが出來ない事實を知つてゐるからである。これが卽ち、教育の革新が常に叫ばれてゐながら、何らその實が擧がらなかつた理由である。之れか卽ち、議會開設以來、既に三十有五年未だに護憲運動と閥族打破運動の必要ある所以である。

(二)

これまで、唯に、無產階級のみならず凡ての民衆が彼ら有產階級政治家に、如何に度々裏切られたことであつたであらう。しかし、この裏切りは當然である。何故ならば、彼ら政治家は、無力な魂のなき一個の人形にすぎず、之れを繰るものは別に存在してゐるからである。無產階級が政治方面に入つたならば——先づ、彼らと鬪爭の關係に於て、相見ゆるであらう。それは必然的であつて、我らの正義を樹立するか、彼らの力に壓迫せらるゝか、二途に一を擇ばなければならない。それは、經濟的戰場と同樣に、種々なる譎詐と欺瞞とに充ち、時には、非常な權力を保持して迫つて來るかも知れない。しかし、過去、幾千年に亘る我ら被抑壓の歷史は、我らの鬪爭心を煽り立てた。「團結によつて力を」——我らの標語であるこの言葉は、將來に於ける危機の切迫して來た時に、凡ての無產階級民を振起せしむるであらう。我らは彼らを何ら顧慮する必要がないのであるから、思ひ切つて眞實な要求を彼らの前に提出することが出來よう。

(三)

併し、暫く、冷靜に考へて見るならば、現支配階級に、心からの親切を感ずることの出來ない我々は、單に、普通選擧によつて、有頂天になつてはならないことは勿論である。恐らくこれは、無產階級の鋭鋒を挫く一つの手段としか考へられないが、若しも、それに有頂天になつてゐるならは、その人はやがて、自分の齒を拔かれるであらうと云ふことを知らなければならぬ。飴をやつて牙を拔くことは熊を馴らすものゝ慣用手段であるが、又、この方法は、有產階級政治教科書の第一頁に書かれてゐることである。假令普通選擧が施行されても、勞働組合法によつて勞働者が取締られ、又、過激思想取締法に一般社會運動が制限されたならば、我々はどれだけの德がある。之れは小學校一年の算術である。この算術を解き得ないものはなからうと思ふ。

故に、我々は政治行動の方法を研究することの必要を否定するものではないが、それと同時、否、それ以上に、無產階級獨自の哲學と精神とを更に一般無產階級民に宣傳することを忘れてはならないと考へるものである。大切なものは精神であつて方法ではないのである。方法のみあつて、精神のないやうな、無產階級政治運動があるならば、そんなものは惡魔に喰はれてしまへ。

# 關西同盟會大會に參加して

藤田周一郎

平常所謂草深い田舍に居て知名の人の演說なり抱負なりを聞く機會の餘りに少ないのを嘆いて居た僕にもそれが實現されたので雀躍して喜んだ

第一日も無事濟んで第二日には、幾多の興味を以て迎へられた無產政黨組織に關する件(京都聯合會案)を議題として持出された

定めし口角泡を飛ばす大論戰が演ぜられるものと豫期して居たに僅か同志吉村君が反對意見を述べたのみで全部其の必要を認めて終つた

呆氣ない事此上無しだ悲しい哉僕には提出案說明者國領君の如き智識は持合さない

然し僕の如き無學の者は無學の者としての意見を述べたい。政黨を組織するといふ事を煎じつめれば英國式政治革命に依つて我等無產階級の解放を有利に解決しようといふのではなからうか、未だ完全なる普選の施行せられない我國に於て其を望むには餘りに遠くはなからうか

綱領は穩健で有つて、政黨との關係は之を索制するとの事だが然らば一層胸襟を開いて現在の稍我等に對して寄り添ふて來る永井柳太郎あたりの居る憲政會等を認めたらどうですか

選擧權を與へられたる有權者に極忠實なる現在の代議士は少々の無理も聞いてくれるから之が一番近道ではなからうか。(完)



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 海老江便り

## 近時雜感

▲近頃アマリ勉強し過ぎて少し神經衰弱的症狀を來しかけた。秋は勉强時だなんて誰かがヌカし居るからコンナ事になつたのだと少々愚痴が出る。でも俺は相變らず、元氣だ。運動せず少し不足だから、コレカラ宏なり加減に擊劍を大いにやらうと進め同人一同は今から腕をサスつて襷を攪つてやらうかなど、力身返つてゐる氣早者もおる。何にしろ、元氣を附けなくちあいくさは出來ないのだ。

▲今月は露西亞革命の八週年に當つてゐる。近頃ロシアの事なビリッとも云はなくなつて了つた。俺はソウなると意地からでも露西亞革命を贊賞したくなる。ロシア共産黨員の如き志士的主義者が、此の武士道國とか云われてゐる日本に居ないとは實に情ない事だ。モウ少し節操がなくちあ主義者の値打ちなんかありあしない。社會主義者と社會不義者の差別は是につく。社會不主義者共は早くこの世から無くなつちまへ。

▲今度、吾が社が中心となつて全日本青年同盟が創立しようとふ話がある。今や我が日本は思想的に右傾しつゝ、ある否或る一方面の有力なる團体に於ては最早極度の右傾を見せてゐる此の思想的政治的の難局に對して毅然！振ひ起つものが吾が勇敢なる青年諸君を中心とする全日本青年同盟だ。吾等は今身、血みどろになつても此の運動の完成を期せなければならぬ。青年讀者諸君よ！此の光多き青年同盟を鞭撻さるゝと共、勉めて入會わらん事を冀望して止まないのであります。

（佐藤）

## 赤露革命八週年

秋風が新淀川邊りを傳ふて我が進め社の軒を訪ねてくる我等は稻穗の波を見社會の不合理な暗流を考察する時に田に充滿する稻が槍や矢の武器の役目をして我等の蹂躪する地主に反抗して立てば一氣に共勞の新社會が建設されると考へると早く農村の小作人諸君が覺醒してくれる事がたのもしい。腦裡に社會主義社會建設を考へながら足を元來た國道に返す時何んとなく物忘すれでもした感もせないでないが、我等は信ず、我等の社會主義思想宣傳の努力が未だ充分徹底して居ないからだと自責感に打たれながら夜は薄暗い電燈の下で勉強して居る同志數人を顧り見る時力強く感じる若い同志の獻身的大衆につくす心根の奥ゆかしさ、あゝ赤色露國の同志が世界で資本主義の最も後れたツァー專制政治の迫害の手を脱したのは丁度八年前の本月だ其の時日本のブルジョアは社會主義說は架空的のもの建設實行の出來ない學說だと攻擊したが未だに赤色露國はたをれない。レイニンも死んだが未だに露國は世界地圖の半を赤色と化して變らない。近頃の支那奉天電報では東三省が赤色に變じた東清鐵道が赤に成つた。と報じて居る吾が社同人は早やく滿洲をこね朝鮮を傭ひ日本を見參する、赤色露國の同志の渡來するをまつて進め社の内にも世界的人物に成る一人の同志が年若くして勉強して居る秋は夜永の時だ農村の青年も大いに土地や住居は變れども勉強しようではないか。

（高住生）

## 兩丹州を見て

▲薄ら冷めたい濕潤な風が吹く明けたか暮れたか判らぬやうな陰鬱な日は幾日か打ち續く。此の裏日本の氣候が、傳統に慣らされた頽廢的な人情を育むで行くのである。として淫蕩な風習を養ひ人間性を卑屈ならしめもするのだ、斯うした環境乃至風土の中に生ひ立つ青年に、快刀亂麻を斷つやうな覇氣は望み得ぬことであらう。自然が人間性に與へる惡化は實に偉大である。

▲山陰道の東部、都近い此の地を僅か二旬に過ぎぬ放浪的旅行者の觀察眼に映ぜし、自然現象の人爲的影響を以つて、青年に覇氣なしと斷じ、文化の低度を云々するは些か早計獨斷の感がないでもないが、然かも是れは切實に感じた一斷想である併し、此の中に僕は、幾%かの例外者の存在するを認める。海添き緣平原乏しく、山嶽疊々たる山國にて、耕地少なく人口稠、猫額大の地を如何程ほじくり廻しても、一家の生計も支へ難く、農村は疲弊の極にある。

▲資本の魔の手は此處より喰ひ入つて、製絲工場の發達となり百戸の部落、千戸の町、製絲場の煙突を見ざる所は殆んどない、併して農村の子女は此處に吸收せられて猶足らぬ、

▲糊口の資を得るにも足らぬ、猫額大の地に戀々たるを潔しとせぬ骨ある青年は都會に走る、海外に出稼ぎする、此の地方に出稼者の多いのは顯著な事實である。

▲傳統 風從せず、コンベンショナルな農奴 生活に甘じ得ぬ例外者の去つた後には。惣領の甚六や迂多羅兵衛が居殘つて、農村の中堅となり、朴々として舊習と、ブルジョアの搾取に甘んじて居る。

▲併し乍ら、僕は尚此の中にも幾%かの例外者の存在するを信ずる僕が此れ迄に見聞せる兩丹の農村は實に（以下 十一行削除）

（樋口）

## 山陰遊說の旅舍にて

▲大阪、東京進め社のカムレッド僕は、山陰へ來た。平岩君と二人だ。島根縣の松江といふ町へ下りる。支局の福田理三郎君と、山根積君とが、驛に僕たちを出迎へて呉れた。

▲街には、もう張りビラがひろがつてゐた。橋の袂で、中村千代子さんが、小ビラを抱へて、途行く人に配つてゐた。しつかりした女性としてかねて噂に聞いてゐた福田靜枝さんにも會つた。福田君の家も、お多分にもれず茶簞笥一つないがランとしたものだ。お膳の代りに謄寫版の箱の上で、同志が、高笑ひしながら飯を食ふんだお膳は無くても、謄寫版がある！これが福田君の家庭のファストインプレッションだ。

▲松江座は二千人位入れそうな、大きな芝居小屋だ。聽衆は宵の中から、つめかけた。流石は本社の福田狂二君の郷里だけはある。中には福田さんの例の關羽髯の顏を見ようといふ物好きも大分交つてゐたようだ。こんな中は、福田さんが來なかつたんでがつかりしたことだらう。例によつて「中止」の連發に逢ふ。折角の支局諸君の辯も「中止」に逢つちや仕方がなかつた。そこで殿りの、平岩君、味方總攬で斬りの有樣に、怒髮冠衝くの勢で立ち現はれた。喝一聲 眞面目な聽衆と横暴な臨カンさんは壇上から叱りつけて平伏せしめたのは、痛快至極の場面であつた。かくて彼は、悠々一時間に亘る長廣舌を振ろいまつくつて滿場立錐の餘地なき聽衆を狂喜せしめた。十月號「進め」がまたたく間に百三十ばかり賣れて仕舞ふあら方賣れた所へ警察から禁止の命令

▲次の夜は里離れた境港といふ町の日の出館。汽車の中へ例のお膳兼用の謄寫版を擔ぎ込んで、ドンドン次のビラを作る、夕方までには町中に、宣傳してしまうといふのだから物凄い。がビラはその筋で差押へ。がこちらもさるもの、福田君一計を案じ寄席の太鼓を胸からつるしてそれを叩けば勇敢な千代子さんがメガホンで今日の演說會を布れまわる。またも滿員の盛況。案外に臨カンが寛大(?)だつたので、割合に、しんみりと話が出來て宣傳の効果も多かつたように思はれた。農民組合の湯原君なども來援した。

▲明日は、更に遠征するといふ支局諸君の意氣込みだ。かうして、山陰全体を「進め社」の力で風靡しようといふ意氣込みだ。全國の同志が、此處の支局の人達のような熱心さで宣傳旅行をやりだしたら等と思ひながら此の手紙を終る。夜中の三時すぎ。健鬪せよ。

（獏生）

# 海上勞働問題の將來と
# 無產階級運動（下）

海野龍平

日本海員組合と海員協會は共にまだ古き小ブルジョア的迷夢から醒めきらない勞働海員を、御手のもの丶國家主義思想に統卒したるブルジョア階級の別動隊である。原因に於ては勞働階級の解放を標榜して居たであらうが結果は全く、勞働階級の階級意識を國家主義的思想に誤魔化したものであつて、ブルジョア階級のための用心棒に過ぎなかつたことは明かになつた。勞働階級の反抗心が民族籍から階級籍へ轉ぜられて行くのを愛國心によつて誤魔化し、其の愛國のための犠牲的行動の代償に勞働海員を解放しやうとしたのが過去の海員協會と日本海員組合の態度であつた。それはブルジョア教化に浸蝕された中間階級の義勇的行動として此の二つの組合は創立されたもので、勞働階級の階級意識が明確になる時、多數の虐たげられた勞働海員は、海員協會と海員組合に對し、思想的に分裂を生じ、それが行動の上に現はれて分裂の形式を取る事は今から豫想出來る事である。

何年か前に陸上の勞働組合運動に協調的態度があつた時に、現在の海員の大多數の行動はブルジョアの協調と溫情の名に欺かれて居るのである。

海員協會は、「航海に關する學術技藝を研究練磨し且つ海員相互に和親協力して海事の發達を圖るを以て目的とす」と其の第一條に宣明して居る通り、多數高等海員の社交俱樂部的研究會として生れたのが今は高等海員の勞働團体の形に變化したと見るが最も適當であらう。高等海員は純然たる無產階級分子でありながら、彼等の不徹底なるブルジョア教養の中毒は彼等を下級海員の純筋肉勞働者と行動を共にするのを喜ばない現在の階級的分野の上では最も中間階級的色彩を帶び時には無產階級と全く背馳する小ブルジョア的行動をなさしめる、彼等の淺薄なるブルジョア教化は彼等を彼等と共に無產階級の行動の中へ入らしめるには、あまりにブルジョア社會組織に未練があり、亦、其の人道主義的立場よりの驕慢心は彼等をして無產階級たる我等勞働海員より一段優秀なる社會的地步を占めて居ると誤信せしめて居るのである。

日本海員組合は一萬六千の海上筋肉勞働者の集團であつて、所謂下級海員は一番虐たげられて來た階級であるだけに、其の將來の思想と行動は最も改造化する可能性をより多くもつて居る。

其の旗幟に見る如く「船主及政府に諒解を求め」「勞働者の生活向上と安定」のため努力するのが海員組合の目標である。原則として此勞働階級の向上を標榜して立つたけれども、創立以來の組合の行動は、結果として全く小ブルジョア的政治運動に豹變し、勞働海員の當面の敵たる船主に對する經濟的鬪爭を、普選運動によつて、議會制度の政治行動にかへやうとするは、彼等の政治行動なるものが未だ小ブルジョア的政治行動であり、無產階級の政治運動として何の價値もないものであり、それが根本に於て無產階級の當然の目標たる資本主義の撤廢としての行動にはなり得ない事は明かな事實である。

此の小ブルジョア的運動に無產階級の本來の目標を忘れて居た海員協會と海員組合の行動は即ち普選運動・船員特別選擧運動となつて現はれた。殊に海員組合の中には一九二二年五月一日のメーデーの示威運動に參加することさへ逡巡した事實があるのを見ては該組合が新しい社會を作るために資本主義の崩壞と勞働階級の解放のために何等の意思のないことを暴露したものである。

海上勞働者の總てが無產階級に屬する限りに於て――高等海員の小ブルジョア的自惚は產業組織の進化と階級分野の單一化によつて自滅する――それは陸上の無產階級大衆の援助と提携がなくては其の無產階級の本來の使命を果すことは出來ない。本年の海員組合のメーデー參加が青年勞働者の首唱にて行はれたことは、無產青年の心理に、官僚的なる無定見なる組合の幹部たちから獨立した新しい無產階級自身の自動的行動にうつらうとする思想的進展の暗示と見る事が出來る。今や組合の態度は青年勞働者の思想と其の革命的行動とを共にしやうとするには、あまりにブルジョア的であり、官僚的である。今や組合は日に日に分裂しつゝある。組合の内部から革新運動の起らうとする氣配と、秘密結社的にやらうとする組合反對運動との結合はそこに新しい無產階級の任務を帶びて近き日に具体化されるだらうと思ふ。

行きつまつた海上勞働組合運動にかすかに光を揭ぐる者は、司厨聯盟の集團的行動と海員組合の反抗分子たる青年勞働者であらう。時代は推移して行く。もう古き腐れたる革嚢は新しい酒を盛ることは出來ない。從來の半官的協調運動では、社會主義化しつゝある青年勞働者の要求をみたし得ない。（完）



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

農民問題

勞働問題

# 時節柄の會話

## 農民と無産政黨に就て

高峰庄三

A『あなたの農民と政黨の問題についての考へを聞きたいですがね。』

B『政治のこと、ここに普選の促進運動と云つたものを輕べツして來た――と云ふ話しですが、農民組合では、必ずしもさうでありませんでしたよ。』

A『それは、要するに、農民の方が、工場勞働者より幼稚だつたからではないのですか。農民の政治熱はブルジョア政治家どもの注入した至極不眞面目な、プロレタリアの政治と云ふものゝ觀念から見れば邪道であつたらしく感じられますがね。』

B『オイ〳〵さう農民を馬鹿にして、農民と政黨の話を聞かして呉れとは、少々不快になりますが……。』

A『否々決して、さうした考へで言つたのではありませんから惡く思はないで下さい。事實をありのまゝに云つたまでゞすからね。』

B『私は、生産階級の解放運動としての組合運動――主として經濟的の直接行動と政治行動との二つに於て、何れを主とし、何れを從とするか、乃至何れかの一方だけでよいかと云ふような、論議に對しましては、今茲で詳細に話してゐる暇かありません……』

A『それでは、どうも政黨のことについてのお話しを承わるに、不安ですがね。』

B『まあ、さう文句ばかり云はれるのなら、私には話が不可能だと云ふより外ありません。が、私の口から出るものだけ、話すことにしませう。』

B『政黨組織の必要と云ふことは、政治行動を、眞面目に考へ、なさうとするには、今日私ども農民は政黨と云ふものを組織して居なくては、駄目だと云ふことに氣付いたのです。

政黨をもつと云ふことは、組合が、その組合のうちに置いてゐる政治部と云ふような機關では、その組合の目的としてゐる無産農民の根本的解放としての、資本主義制社會の改造、その資本主義制社會は、當然に、今日見るが儘のように、國家を形成し、その國家權力は社會組織の各般に亘つて、頑強にと云ふ程に網が下されて居る如く働いて居る。この國家權力は、資本家及び資本家の勢力の及ぶ手のうちに握られて居り、少くとも資本家階級の左右し得らるゝ狀態にあることは現實の政治行政に觀る如くである…。

A『そんなことはよく分つてゐますよ。』

B『まあ〳〵氣長く聞いてゐて下さい。……そこで、今言つたように組合の政治部では資本主義制社會の改造運動としての一方面をなす政治行動は執り難いのです。即ち組合は、産業の各部門々々に於て直接な經濟行動に依つて根本目的への到達を圖るのでありますが、それでは、社會の各方面に亘る、今日の人間の生活を決定してゐる國家と云ふそれ自体を改造するための運動としては完全だとは申され難いと信じます。』

ですから、爰に政黨と云ふものを組織するに當りましては、どうしても、その構成さるゝ分子は、全無産階級を含むものでなくては意義がないのです。農民は純農民のみで工業勞働者はそれのみで各政黨を有つと云ふことでは、政黨を有たないで、各の組合中に置いてある政治部の行動する範圍と餘り違ひますまい。それでは政黨を有とうと云ふ眼目が立ちませんからね……』

A『一寸待つて下さい。其々の組合内の政治部の行動と、ヨシ農民は農民だけで、都市の勞働者はそれだけで各々政黨を組織するにしても、組合と違つて、さうでせう。今日ある組合は各々の産業に從事する生産階級中のほんの一少部分に過ぎないのですが、政黨になると　組合組織のないヨリ多くのものを包含することになるのですから今ある組合の政治部のそれとは同日に談ずべきではないでせうが』

B『まゝ、その邊のことはオイ〳〵とお分りになりませうから、話を聞いてゐて下さい。あまり横槍を入れなさるなら話は止しますぞ。』

A『これはしたり、シンメーに拜聽致しますよ。さう怒らないで下さい。』

B『さて、申しました如く、私どもが欲ふ政黨の構成分子は全無産階級を含まねば駄目だと第一の考へとしては正しいと思ひます。ところが、政黨を愈組織するとなつて、方針なり態度の決定なりに立



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ち至つて、各々の組合の意見が一致しなければ、何うするかと云ふことはまた重大な問題ですがね。」

A「一寸話しが分りかねますがその方針とか、態度とかの意味、それに組合と云はれますが、それについてもお話し下さい。」

B「組合と申しますのは、私どもが政黨を組織しようとするに當りまして、無產大衆と云ふ漠然としたものを主人公としては、どうしようもなくそれは當然に農民組合、勞働組合と云ふ組織された無產者を主人公とせねば駄目ですから、私は、政黨を組織するに對する考察に、組合を取つて話しを進めるのです。

而して、態度と云ふ事は、私ども無產階級が、政黨を有つに對する立場の決定とでも申しますか。政黨が、今日の政界に於て有するであらうところの意義と、働きに關するものですね。卽ち、その政黨は議會政策に重心を置くこと今日あるブルジョア各政黨の如く、今日の議會を以て唯一の活動舞臺とするにあるか、さうでなく、單なる今日の議會に於て利用し得るものを利用するのみで任つて、無產政黨は當然に、次の社會へ、否資本主義社會の崩壞前後に重要なる任務を有し、引き續いて無產階級の支配する社會へとその仕事をするためのものとするか、と云ふのに在るのですが、この前者は、今日では問題にする人は除りなさゝうですから、後者のうちで更に二つの態度に別れます。卽ち共產黨獨裁か、無產階級の獨裁かその何れを資本主義崩壞後に執るかと云ふことです。次に方針と云ふことは、政黨組織の具體的なことを主として申しますが、先づ組合と政黨の形式的差別に關するものとか、政黨の統制力を組織無產者に置くか、乃至一般黨員の選出の機關のみに置くかと云ふような點、構成分子中に智識階級・急進ブルジョアの包含の形式工合等とでも申しませうか、政黨に對する一般的態度、と別に、組織に關する一般的目方とでも申するものですがね。」

A「まゝあ　さうですか。そこで、あなたの個人の意見としては、政黨に對する態度はどうです。」

B「私としては、資本主義崩壞直後に於ての共產黨獨裁を非とし、無產階級の獨裁と云ふ形式を執ることを理想とします。」

A「では、その共產黨獨裁と無產階級の獨裁の形式の差違はどう云ふことですか？」

B「それに就ては、相當に論議があるでせうから極短い今日の話では止して置きます。でないと私自身に於いて一寸馬鹿を見ることになりませうからね。」

A「さうしますと、今度お話しを聞くとして、方針ですがそれについてお話しを聞きませんと今日の話しのけりがつきませんからね。」

B「さうですね。第一組合と政黨の形式はハッキリと分別することですね。構成分子は全無產者であり、智識階級及急進ブルジョアを含む含まないと云ふことを拒みません。政黨の統制力は、形式上に明かに表して、組織無產者が握ることですね。だから、組合としての加入形式を執り、個人に還元して政黨加入をしない方針です。だから、組合は二個以上の政黨に加ふることが出來ない筈です。個人加入にすると、組合と云ふ分子中に二個以上の政黨に關係し得ることが考へ得られますけれど、組合として加入手續きすることを主眼としますと、個々の組合員を組織されようとする無產政黨以外に加入し得られず、組織されむとする政黨のために投票することと、只單に棄權することとの自由が在るのみとなります。是れは日本と云ふ民族性から考へて、西洋諸國の如く行かないと云ふことを洞察しての私たちの考へてゐる方針の一つなのです。」

A「さうすると、組織無產者で政黨の統制力を持つことを形式に明かにすると、無組織の無產大衆なり、インテリゲンチャ及び急進ブルジョアの包含が六ケ敷くなり、是等は別の政黨を組織し、延いては組合を攪亂される恐れはないでせうか？。」

B「それは見る人の意見でせう。さうしたことは、組合加入を個人に還元して加入する方針をとり、政黨の統制力は形式上は、黨員一般から選出する機關のみに持たすと云ふ方針にしたところが同じことが考へられないでもありません。それは、無產政黨として組織されてくるものが唯一だとは決定して居ませんからね。二つ以上の政黨が現れるとすれば、そこには同じく、組合と政黨の關係、それから政黨と無產大衆との關係は、私たちが執らうとする方針に對して論者が指摘する難點は考へられますからね。だから、私たち組合を持つ無產階級は、その組合を組織してゐると云ふ土台の上に立つて方針を決定すればいゝと思ひます。それが、何う云ふ結果を生むかに就いては更に一段と考慮を要することは勿論ですがね。」

A「何かと聞かして戴きましたが、政黨を何時組織されると云ふ意見ですか。」

B「早い方がいゝでせうが、それまでに、政黨組織の準備に重きを置き、善處すべきでせうね。はゝゝゝ」

―九・八―



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 崩れんとする姿

野田律太

世の中の總てのものには、必ず、必然的な、如何ともする事の出來ない、運命がある。そして此運命の前には如何なる力も用をなさない、例へば太陽が名殘りの光を輝かして西の山に傾むい時に扇を持つてあほぎ反す事が出來ない樣に――。

資本主義の社會が生々して居つた壯年期を過ぎて、老年期に入つた姿がまざ〳〵と見へる樣になつた。あたかも柿の實が赤々と熟して遂に腐敗し地上に落ちるべき運命がさしせまつてゐる如くに。

それは、資本主義の生産方法が無政府狀態であり、それより來る猛烈なる大恐慌――と言ふ樣な重大な事ばかりでなく、もつと小さい方面を見てもよくわかる。例へば一ツの演說會場に行つた時（公會堂、劇場、寄席、寺院、教會）に感じる事であるが、こうした會場の所有者はブルジアであるか若しくばそれほどでなく共中金持であるに違いない、そして此會場を建設した目的は、「金儲け」であつたのである、そして彼れの目的通りに何圓か何十圓かで貸してくれたのであつた、所が其、會場で演說し宣傳し又は色々と協議する場合、有産階級に取つては頗る厄介な事ばかりでなければならん筈である、本來なれば、無産階級の集合する事は甚だ恐ろしき事であり毛嫌ひせねばならん事であるにもかゝわらず、彼が金儲けの爲には借り人をそんなに選んでばかりはいられない、要するに金持ちは、利益の增大を目的として會場を建設しその目的の爲に使用して無産階級の自覺と團體との便宜をはかり、是を手傳いて自己階級の倒壞を速かならしめんとしてゐる事になりはしまいか

此事實に依つて一種の皮肉と歷史的・必然の運命とを見逃す事が出來ないのである。

又、社會的な色々の便宜に付てみる事であるが演說會場、及び其他の集合場に明るい電燈が點火されて好都合である事なんかはさほど問題にせずとも資本主義發達の必須狀件である鐵道及び通信機關がその位今では無産階級運動の進展に役立つものであらう

こゝろみに東京に大會があるとしてみよ、これが昔ならそれこそ大問題であつたであらう。否寧ろ不可能であつたらう、それが汽車の發達に依つて便宜を得、思ふまゝに運動を進め、應援が行屆く面白味があるのである。マルクスは嚴の宣言に「ブルジョアーは、自分を殺すべき武器を鑄造したばかりでなく又其武器を使用すべき人物をも作り出した」と言ふてゐるが、實にさうだと思へるのだ。

最近、著しき一例として此樣な事があつた、それは愛媛縣の新居郡、即ち住友別子鑛山に從業する勞働者が勞働組合を組織した事である、別子は住友王國であつて、劇場も宿屋も郵便も電信も皆彼が掌中にあると言ふ位で此の勞働者は部會の組織に加盟する道は斷たれた感があつたのである、幾度も計畫し幾度も失敗した。會社側は必死の努力に依つて勞働者の組織と言ふ時勢の流れを喰止めんと、憲兵や警官の古手を集めて思ひ切つた彈壓を加へた（勞働者新聞參照）所が此壓迫・迫害は、かへつて組織に對する有効なる肥料となつたのである、萬一彼れが從來の如く溫情主義に依つてきたらんか、それでも勞働組合は靜かに組織されたであらう、そして此度の如き猛烈なる壓迫を加へれば猛然と蹶起する、其處に時の力の偉大さを知る事が出來るのである。

此別子へは住友自身の汽船を大阪より廻わして何處迄も獨占的にやつてゐるが、此處に面白い事は汽船が、機關紙を運ぶ役目を勤め又鬪士を乘客とする事である。先づ船も同志二人が汽車よりも樂である爲に住友汽船御代島丸に便乘した時、船長は船員一同に向つて曰く「アノ二人と言葉を交へてはいけない、如何なる場合たりとも決して認印を押してはならん」と訓示したさうだ。其樣に危險なものなれば斷然、乘船を拒絶すればよかりさうだが正當なる、賃銀を支拂へば、それが出來るところに妙味を感じるのである。

利益を目的とした建築物は其目的を果す事に依つて敵を強大にし、諸種の便宜は生産階級の飛躍的進展をはかり・壓迫は〇の母である事に依つて運命は既に定まれりと言わざるを得ないのである。

ひるがへつて民衆藝術てふ言葉に依つて氣をしてゐる活動寫眞の脚本をみるに其多くは虐たげられたる者の反抗を太い線に現わしてゐるものである、即ち「火華、嵐の孤兒、反逆、刄光、其他何々」と言ふ如くであつて一般民衆就中、現代の最下層に虐たげられてゐる者の血湧き肉躍るものゝみではないか。是は何を語つてゐる、即ち民衆より「受ける」には反抗を現はしたものでなければならない故に勞い斷くならざるを得ないのであつて又此反抗の脚本は虐たげられたる者に反抗を敎へる結果になるであらう、此處にも崩れんとする社會の姿は見へてゐるのである。（完）

# 青年店員諸君へ

上西基次郎

社會問題は近來著しく高調して來た。無產階級の勢力は日一日と增大して行く、然るに無產大衆の其の内にありて、依然醒めざる一團がある。それは全國大小都市に存在する商店員諸君である。農村の小作人や都市の工業勞働者が無產階級の團結を呼び、解放を叫ぶこの時、諸君は商店員としてブルヂョア氣取りでゞも居るのか。甚だ無關心の樣に思はれる。

諸君は都市又は農村に於ける無產階級の子弟であらう。商人たらんとするが爲に將來には嚇々輝く希望？百萬長者たらんとするのである。只黃金を蓄積するのみが吾々人間の名譽なりとでも思つて居るのではなからうか。諸君の目的が果して正しいものだらうか？黃金の蓄積が吾々人間に取つて何れ程の利益——幸福を齎したか？

現社會にありては資本の集積の多なるを以て成功として居る。成功とは彼等が詐欺を胡魔化す爲に掲げた看板に過ぎない。こんなものに人心が左右せらるゝとは實に悲しむべき現象である。看板が餘りに立派であつた爲、中には龍宮殿でも築かれ、當然其の中に住む事が出來やう位には思つて居たであらうが、それは諸君等を陥入れる爲めの手段であつた。

店員生活に第一歩を踏み入れたならば、先づ其の賃金の低きに驚かされるのである。特に甚だしきは別家制度と云ふ名の下に何等の報酬もなく反對に親等の方から一年に幾等か米などを貢がせる樣な處もある。併し今は極小數又は或る地方に於てのみ行はれて居る樣だ。最も多く行はれて居るのは幾年かの期限を定めその期限が過ぎたならば獨立の生計別家制度を營ましむると云ふ方法である。其の間僅小の金錢を——それも衣食をさせるからと云つて全く只與へるかの如くにされるのである。又面白い方法は普通に月給を定めて置いて、其の中から飯代及仕着料などゝ云つて馬鹿に高く見積つて差引して其の幾分しか與へないのである。これは方法が違ふ丈けで結局は同じである。商店員諸君は雇人、被雇人の關係に於ける他に類のない最低の人間であらう。かゝる慘憺なる地位にあり乍ら、これを成功の彼岸に達する修養なりと信じて居るのだ。實に奴隷でも苦しみは苦しみとして感じたであらうに、苦しみを苦しみと感じない諸君は奴隷よりも劣つて居ると云はなければならない。斯かる迫害の下に一定の年限に達せんとする以前に於て色々の口實を設けて、馘首を謀るのだ。殆んど又それに乘せられるのが多い。又そうある可きが彼等の手段なのだ。

諸君が漸くにして獨立し得るならば、其の時に於て又第一歩から踏み出さなければならない。苦痛は一層の苦痛となつて現はれて來る。斯うなつてから是迄の自己の歩み來つた其の道が只彼等に搾取せられんが爲のものであつた事を、初めて悟るであらうか。それはもう何時かの過去となつて、地團だふんでクヤシがつて見た處で、もう仕方がない。

近頃は大百貨店と云ふ樣なものが出來て、大仕掛に搾取を行はんとして、又其の大仕掛が彼等ブルジョアに取つて何れ程有利であるか知れない。そして其の内に使用せらるゝ諸君商店員は益々苦境に沈み行かねばならないのだ。

資本主義の發達は小量生產より大量生產に移つた。商店員諸君が幾年かの後に小商賈を初めたとしても、遂には大資本主義の勢力の中に捲き込まれて、再び起つことの出來ない貧乏人となつて路頭に迷はなければならないのだ。諸君の最初に於ける目的は斯くの如く無慘な終局を見るのだ。

商店員生活は商業見習ひの爲の修養としてもよい。けれ共修養は吾々人間の最大缺くべからざるものである。故に最大であればあるだけ確固たる信念の下に行はれなければならない。そして誤つてはならない。誤りは吾々にはよくあることであるから、それが誤りであることを知つたならば直ちに改めなければならない。

今諸君に云はんとすることはその修養の誤つて居ることである。諸君が働いて居ることは唯一個の人間の私腹を肥やし富を作らんが爲のものではないであらう。修養は他人に瞞されたり、搾取せられたりすることではない。それならば今迄の修養と思つた處のものは彼等ブルジョアが諸君を奴隷たらしめんが爲に作つた胡魔化しである。俺等の勞働はそんな無意義なものではない。勞働——それは單に彼等に捧げ、否掠奪されんが爲のものではない。

諸君が斯くした悲慘事に屈從せなくてはならないのは諸君に確固たる自覺、組織がないからである。吾々の自覺が確固たる信念の下に刻一刻と深刻化し行く事を以て、組織だてられたる力によつて無產階級の解放は成し遂げられ得るのである團結は吾々無產階級の唯一の武器であり力であることを知らねばならない。



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

病死乎、致死乎

# 松本源太郎氏の獄死

布施辰治

一、

大正十三年九月二十四日、午後九時十分、市ヶ谷刑務所内に於ける松本源太郎氏の獄死は最も悲痛を極めた水平運動の犧牲であつた。

同じ人間に生れた兄弟達の、樂しく生きて安らかに死ぬ丶好き日をアコガレて居る水平運動から觀たゞ兄弟達現在の生き方は、余りに悲慘な苛まれ方であるゝ同時にその死に方も又余りに悲痛な虐げられ方である事を憤らずに居られない。殊に左樣した悲痛な死に方の中でも、ほんさうに無慘なものは兄弟の獄死である。

松本氏は獄死の前二日、二十二日、花山氏等が面會した際「こんな處で果てさせられるのが殘念だ」「病氣なんかで死にたくない」と云ふて悲憤の涙を絞つたと云ふ事である。又他の在監者は、松本氏の獄死の前夜頃「看守はどうした」「まだか〳〵」「何をしてゐる」と叫んだ人がある。夫れは多分松本源太郎氏であつたらしいと云ふことを私に告げて呉れた。

水平運動の犧牲者松本源太郎氏の最後は、ほんさうに悲痛を極めた獄死であつた。

二、

市ヶ谷刑務所で發表した松本源太郎氏の死亡診斷書によると、（一）病名は脚氣症で、（二）發病は九月十八日となつて居て、余程急性の脚氣病だつたらしく思へる。

けれども脚氣症は一種の慢性病である。殊に松本氏は入監前から

# 國定忠次（上）

藤江俊夫

（一）

國定忠次が、めき〳〵と、男を賣り出したのは、關東ラシの親分、島の伊三郎を斬つて捨てゝからである。全く近頃では、忠次は、上州はおろか、關東切つての大親分に誰れにとはなく、押し上げられて仕舞つてゐる。

それは繩張爭ひの喧嘩ではない。忠次は、そんな事でめつたに刀を拔くような男ではない。忠次にしてみれば、何よりも、伊三の根性が氣に喰はないのだ。一人前の長脇差で御座るの、俠客で御座るのと、大きな顏をするのも、まだよい。しかし、それには先づ不義を憎む根性を有つた者でなくてはならぬ。弱いものを扶け、強い奴を挫く。これこそ、男の守り本尊ともいふべきものだ。所が、島の伊三には、丸つ切りそれがない。無いばかりか、公儀から十手捕繩をあづかる「御用勤め」とは何事である。代官共の手先となつて、弱い百姓をイヂめるとは何事である。國定忠次には、かうした奴の卑劣さが、癇癪にさわつて仕方がないのである。況んや、この輕蔑すべき奴が、お上の「威光」を笠に着て、虎の威を借る、その小生意氣さが、癪で癪で仕方がないのである。忠次みたいな性格の男には、こんな醜惡な場面を、見て見ぬ振りがとても出來ない。そこで、つい、天勝助定の一刀が生胴めがけて飛び出して仕舞ふのである。

こんなワケで、國定忠次は俠客仲間でグツト男を上げたばかりではなく、村人の信望といふものが亦、素晴らしいものだ。永い間、惡代官から蟲ケラか何ぞのように取り扱はれ、その手先からは、ドヤシつけられ拔いた百姓達の心は、感傷的になつてゐた。冬枯のようにうらぶれてゐた。その心に、忠次の熱湯のような男氣深く徹しない譯には行かないであらう。村の人望が彼の一身に集まつたのも道理である。忠次は、村人の、公儀に抗爭する只一つの力である。この事は、たしかに彼にとつても誇である。痛快な事に相違ない。

（二）

忠次は其の頃から役人を憎んだ。それは附け燒き刃ではなく、だが、それは一面からみると、同情から生れる憤慨で、冷却せぬとは言へなかつた。また、冷却せぬ迄も老獪な役人からさう、逆利用されぬ限りでもない性質の憤慨であつた。しかし、彼は、聰明な男である。間もなく第三の時代が來た。それは、忠次自らも、やつぱり貧しい百姓の階級の一人に過ぎないのだ、といふ自覺だ。それは、前のように、自分だけを、何か特別な「俠客」といふ階級に祭り上げて仕舞つて、そこから弱い百姓に同情するといつたものではなく、自分自身も「同情さるべき弱い」貧しい百姓階級の一人だ、といふ意識である。こういふ意識から出發する反抗ならば、冷却もしなければ、他より逆に利用されるなどゝいふ事はあり得ない。

が、この意識を、はつきり摑んでからの忠次は、見ようによつては少し陰鬱になつた。即ち、近頃の彼は、以前の如く、ちよつとした事に、すぐに、義憤を感じて悲憤の熱涙を流すなどといふことが、あまりなくなつたのである。しかし、その代り、怒れば、それこそは、どんなドエライ事件を持ち上げぬとも限らぬといふような感じを、敏感なものには抱かせた。彼自身でも、そんな時は、非常な決意が伴はれ、今までみたいな子供じみた仲間喧嘩ぢや納まるまいと思つた。そんな非常時が、自分の一生の中に一度は必ず來るといふ豫感が、何故か、忠次には信じられてならないのである。忠次の、きかな相な、切り上つた眼の、瞳の色は、かくて、次第に澄んで行くように見ゐた。

（三）



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

脚氣の自覺がある。入監後面會に行く度毎に、治療の便宜を乞はれた爲に「氣が遠くなる」と云ふ事を訴へて居た。辨護士に對しても幾度かそれを理由とした保釋の手續を請求して來てゐた點を綜合して考へると、どうしても松本氏の獄死は急性の脚氣が十八日に發病して二十四日に死んだものとは思へない。

三、

人は何時何處で病んで、又どんなに設備の完全な、看護の行屆いた病院でも人事を盡して天命の盡きる病氣を如何ともすることは出來ないのだから、市ヶ谷刑務所で病んだ松本源太郎氏が、人事の限りを盡した醫術最高の治療を受けなくとも、セメテは普通醫術最底の治療法でも受けて、尚且つ起つこと能はざりし天命の病死であつたら、水平社同人は何事も云はなかつたらう、けれども病氣に罹つたものを其儘に抛つて置いて仆れた病死は斷じて眞の病死では無い病氣に罹つたものに何等の治療を施さずして、其の仆るゝに任せた病死は眞の病死に非ずして遺棄致死である。

刑法第二百十八條に「老者、幼者、不具者、又は病者を保護すべき責任ある者、之を遺棄し、又は其の生存に必要なる保護をなさゞるときは、三月以上五年以下の懲役に處す」同第二百十九條には「前二條の罪を犯し因つて人を死傷に致したるものは傷害の罪に比較し重きに從つて處斷す」と立派に遺棄致死の罪を規定してゐる。

四、

病死か、致死か、松本源太郎氏の獄死には多大の疑問がある曰く

(一)脚氣症の訴へを聞き流して終に重症に陷らしめたるには非らざ

おそ夏の、ある夜のこと。國定忠次等は、庭の蟲の音を肴と、いふのでもあるまいが、車坐で酒を呑んでゐた。忠次は湯氣の立つた櫻色の引き締つた裸體に、白地の大柄の浴衣を、無雜作にはをつた大胡坐、湯上りの一杯が、たまらないといふ風である。時々高笑ひが、どつと崩れ、手拍子がなる。和氣が春霞のようにたちこめる。お定まりの喧嘩の手柄話も酒がまわるにつれて、陽氣に亂れて來る。忠次は、合槌を打ちつゝそれを聞いてゐる。乾分の武勇傳は親分の彼にとつては、こよなき聞きものに相違ないのであらう。ともすると利かなそうな眼尻に微笑が浮ぶけれども、やがて、彼は、乾分達の氣焔の中に、往年の自分の――實名に吸々としてゐた、おつちよこちよいだつた自分の姿を見出さない譯には行かなかつた。それで彼は言ひ樣もない淋しい心持ちになつた。心持が、沈んで仕方がなかつた。だが、彼は、それを引きもどそうともせず、沈むまゝに沈ませて行くのである。が、しばらくして、彼は、沈んだ顏で言つた。

「俺あ。考へてみりや、親分でも、何でもねえ。只の、ノラクラのやくざ野郎だ。」

「エッ!」

「何も、不思議がるにや及ばねえ」と、忠次は、乾分の方へ、無理に微笑を見せて、「だが、まあ、國定村の百姓衆を見ねえ。この炎天に、あの通り眞黑になつて、毎日々々の野良仕事だ。俺たちのようにノラクラ遊んで、食つてゐるものは、只の一人だつてゐやしねえ。考へてみねえ。人間てものは、働いて食ふのが、こりや當り前だ。働かねえでゐて、それで、他人の作つたものを食ふ位ゐ、世の中に、太え者はあるもんでねえ天道樣の許さねえ穀つぶしだなあ。この理屈がわかれば、差づめ、俺も、手前達にもしろその穀つぶしだ。」

「親分までが、天道樣の許さねえ、穀つぶし……。」

「當りめえよ。穀つぶしの親分だ。穀つぶしなら、穀つぶしらしく、村の片隅にでも引つこんでゐりや、兎も角、一角の親分だなどと、大きな面してゐた忠次といふ男は、よく〳〵の間拔けだ。また、村の衆も、村の居候とでも呼ぶところか、親分さんなぞと、此のやくざ野郎の忠次を心から大切にして呉れる。働かねえで遊んでゐる俺みたいな者が、働いてゐる百姓よりも、樂をして威張つてゐる。こんなあべこべな話しがあつてたまるものか。それを、思ふと百姓にすまねえといふ心で、俺は、いつぱいだ。といつて今更堅氣にもなれず、此頃では、俺は、なまなか、親分なんぞと言はれると、冷汗が流れるような氣がしてならねえ」

「親分。よつく分りやした。ですが、親分や、あつし等が親分のおつしやるように、穀つぶしだとするなら、あの百姓の首を締て、まるで、血を吐かせるようなまねをしやがつて、年貢米をふんだくつて行く、役人て奴等は、あいつ等は一體何です。何て奴です。」

「役人か?米泥棒よ。」

「米泥棒……。」

「頰かむりこそしちやゐねえようだが、自身勝手なおきてだの御規則だのといふものを作つて、公然に、ひとの物を持つて行く泥棒さ。百姓が不服の一つも言はうものならそれこそ大變だ、御規則にさからつたといふんで、百姓の首は胴にやくつゝいてゐねえ。第一、その御規則といふのは誰れが承知で作つた。百姓は一人だつて、そんなものを承知した覺えはねえ筈だ。皆んな、あいつ等が、自分の都合のいゝ樣なものを、勝手に作つちや、天下の法度だなどと拔かすのだ。無理に、そうして仕舞ふんだ。天下の法度は百姓いぢめの道具だ。天下の法度ぢやねえ侍といふもののだけの法度だ。」

「それぢや。百姓と、侍といふものは、まるで、敵と味方みたいなもんですね。」

るか、(二)餘程の重症であつた筈
氣症を十八日迄抛　て置いた治療の手遅れの致死ではないか、(三)十八日に漸く脚氣病の重症に氣附いたとして適當な療治をしても、尚且つ起つ事が出來なかつたのか(四)刑務所の醫務局には十分な治療の設備もな　のではないかと云ふ事をその主なるものとして、(五)更に刑務所内で十分な療治が出來ないものとすれば何故早く療治をする機會を與へて呉れなかつたか?

そうした疑問を解決する事が眞に松本氏　獄死を吊ふ所以であると同時に現在、將來刑務所で病氣に罹り、松本氏と同じ運命に置かる、兄弟達に對する水平社同人と私等の責任であると信じた。

五、

其處で水平社同人及び馬島ドクトルと私は、直ちに松本氏、獄死前々の事　調査と共に、慶大川上博士に請ふて死體を　剖に附した結果は　々遺憾　死へ　問を深からしめたので刑務當局に其の疑問を提げて糺彈を試みた。彼等は當初色々な辯明をしたが、結局左の諸點に　て彼等は其の非を掩ふことが出來なかつた。

六、

(一)診斷書には十八日發病とあるが、前きに死亡前(實際は死亡後ならん)の重症通知に「七月十六日當所收容以來脚氣病に罹り、當所病室に於り云々」とある。公文書中當來病室で療中とあるのは虚僞だが七月十六日刑務所内容の際健康診斷の結果、脚氣症を認めて居たので十八日發病と云ふ事は全然虚僞で、脚氣患者として、初めて投藥したのが十八日であると云ふ事(證據―刑務所の公文書に依る)

「そうだ。所詮は敵味方だ。向ふを、やつけろか、またこつちが餓死するか。道は二つに一つよりねゑ。お百姓が牛か馬みたいに働いてそれでゐて、うめゑもの一つ咽喉に通さねゑで、死んで行く。それといふのも、みな侍といふ奴が、百姓の上にゐて、稼ぎ高を絞り取るからだ。絞とる奴を、無くして仕舞はねゑことには、絞取られる百姓のいゝだつは上りつこはねゑ。」

「すると、親分。その泥棒を殺つちまへば。」

「まあ、そうだ。だが、一匹や二匹、三ピン共の首の根つこを叩き斬つた所で始まらねゑ話しだ。侍の天下を、ひつくりかへして、その代りに、皆んなが、一樣に仲よく働くような世の中に、立て直さねゑことには、どうも、こいつあ仕方があるまい。と、大きな所ばつかり狙つてゐたつて、尚ほ更始まらねゑから、先づ、上州の代官共を向ふに廻して、幾分でも百姓の味方になる。これがせめて村の衆の恩に報いる俺たちのつとめだ。」

忠次の聲はさびてゐた。血の樣に潤ほつてゐた。が、凛とした力がこもつてゐた。それは、彼を取り卷く乾分達の胸に、しみ〲と食ひ入るようである。

「蟲の音が高くなつた。」

忠次は、酒氣を、吐くように、庭の草むらに泉の水の如く澄んだ眼を投げかけた。赤城山上にかゝつた月は、忠次の庭の草の亂れにも、櫛の歯のように銀光を落してゐた。けれども、草の亂れは、生氣を回復せぬのであらう。株根の毛のように、赤ちやけて、地上に亂れ伏すのである。今年は例年に比して、一きわ嚴しい暑さだと、村の古老の取沙汰であるのに、毎日々々の日照り續き。何でも、このまゝで、一週間もつゞいたら、今年の秋は、飛んでもない大饑饉だ、と、よると、さわると百姓等の戸毎の噂である。

「田は、まるで龜の甲羅みたいに、割れつちまう。苗もなにも、燒けて、ぶつたほれる……。」

「今朝も早く、山の頂上さ、雨乞ひの大鼓ぶちに、登る村の衆に、行逢つたが、全く、人間の生きた顔色ぢやねゑ」

「それも、その筈だらう。いくら饑饉年だからつたつて年貢米を納めねゑつて譯にも行くめゑし、どつちみち、みじめ見るなあお百姓だ。」

「ねゑ親分。この秋は、大事ですぜ。」

(四)

天保八年の秋が來た。

夏の日照の結果は、さつそくやつて來た。上州一帶にかけての大饑饉である。米は一粒だつて穫れぬ。年貢米所の騷ぎではない。あつちこつちには行倒れが出來る。枯草の根にしがみついて餓ゑ死んでゐる者もある。可愛い妻子を置き去りに、夜逃けする薄情も餓ゑに迫ればこそだ。金持大盡の門の扉の前に倒れてゐるのは、金持の施與を當にした不明の屍であらう。また、代官所へ、泣きついた百姓は大底、毆り殺されたとの人の噂。

×　×

國定忠次の家の奥座敷には、兄弟分、乾分一統、忠次身内の者が集まつた。言ふ迄もなく饑饉救濟策の相談の集合である。先づ、自分等の蓄へは、殘らず村人に配ることが一決され、次いで、飢民救濟は火急の問題なれば、このためには、手段の如何を選ぶ必要は斷じてないといふのが有力な意見である。結局、財産は××の集積であるから、上州の金持共を片つ端から說き廻り、強制的に寄金を徴發しよう、萬一、これに應ぜぬ者があつた場合は、村民を見殺しにする太い奴であるに依つて、村民全体の爲めに、その因業の首を刎ねるも苦しからず、といふことに衆議は定まつた。かくて夜ふけざるに、早くも身仕度を濟ました。乾分等は三々五々と定めの方角に向つて出發した。乾分等を、女關に送り出した忠次は無言であつたがその眼色には、斷乎たる決意が宿つてゐた。その夜おそく、忠次は二人の乾分をつれて、闇にまぎれた。(續)

批判

# 退席問題前後

日下部直哉

日本勞働總同盟關東勞働同盟會第十三年度大會における所謂退席問題に就いては既に十月十一日附で退席四組合（東部合同勞働組合、關東印刷勞働組合、時計工組合、横濱合同勞働組合）代議員會の名を以て發表した處の「退席理由書」に當時の事情といかにして退席せざるを得なかつたかを詳細に書いてあるから、此處には退席問題が大會前においで如何なる背景を持つており、大會後どんな風に進展して行つたかを書く事にする

◇

關東勞働同盟會に今回の退席四組合が加盟したのは今年の三月頃で出版從業員組合は一時共生會と名を改め更に關東印刷勞働組合と名を變へ、南葛勞働會は東部合同勞働組合と稱し、關東機械工組合は鐵工の一部に編入され、時計工組合はそのまゝ、總同盟に足をそろへて加盟したのであつた。横濱合同勞働組合は比較的最近に加盟したのであるこの鐵工一部と他の東部、印刷、時計、横濱の四組合は殆どその組合員が二十二三歳の青年を以て充たされてゐた處の關東方面における最も元氣旺盛な組合なのである。

人評して曰く「一種の暗流」と云ふ樣なものがとにもかくにも形となつて表れ出したのはこれらの組合か關東同盟にはいつてからの事である。それ以前においてもとかく總同盟の内部には暗鬪とか暗流とか稱するものが常にあつたらしい我々は今それに就いては語る必要がない。最近に起つたこの「一種の暗流」と云ふものがどんなもので、どんな機會から表れ出したかを今云へばいゝのである。それは初めの間は決して主義主張の差違から起つたものではなかつたそれはただ單なる反感であつたらしい。無事關東同盟に於て幹部の席を占めてゐたものが、次々に加盟して來る有力で有能で元氣旺盛な青年組合が事毎に實力と理論に於て優勢をしめるに引き代へて彼ら幹部連は、日毎日毎に劇烈となる階級鬪爭の渦中にあつて組合運動は革命化し、より以上に鬪爭的となり行くにも拘らず無能で無氣力であつたが爲めに青年組合は次第に同盟會中に於て重要な位地を占めて行くと同時に必然に彼らの椅子が危なつかしくなつて來たこの事實は彼ら幹部連をして青年組合に對する反感を深からしめ彼らの無氣力と無能は次第次第に彼らをして改良主義的日和見主義的傾向を取らしめたのであつた。更に事毎に實力と理論に於て彼らは讓歩して行かなければならなくなり、遂に最初に單なる感情的反目であつたものが主義政策の上に於ても、東部、印刷、時計、横濱、鐵工の一部分の幹部との間に大きな距離が出來、彼ら古き幹部連は次第次第に「全勞働階級」の立場から離れ、その椅子と地位のために、或は總同盟帝國主義と稱せられ獨斷主義と組合利己主義に陷入り、更に一組合から一支部のエゴイズムは囚はれて行かざるを得なくなつたのである。かくて思想的には全然舊勞働組合主義的改良主義に墮し、行爲の上においては職業的勞働運動家となつて行つた。それ以上に彼ら幹部連は新進の青年と理論においても實力に於いても抗爭し得る見込がない事を知るや、彼らはいまはしくも暴力を以て青年鬪士に對するに到つては、彼ら幹部連と、その無知盲從の子分共は（それらの子分の中には未來ある青年も澤山あるのだ）氣の毒にも未だ自分達勞働階級が眞に開放されるべき條件とその方法を知らないために、この無能無氣力な幹部と共々に改良主義と日和見主義に墮ち、更に反動傾向すら帶びるに到つたのである。我々は彼ら幹部連がいかに反動的傾向に墮したかを一々例證を擧げ得る。然し今暫らくその事實を發表しない。ただ二三の事件の概略說明をすればそれで足りる、即ち同盟の爭議部長ともあるものが鐵工組合のあるものを洋服の上衣が裂ける程撲つたり、或る幹部系の男は單なる理論上の問題を以て（しかもそれが五六日も前の役員會の席上での）直に暴力に訴へて相手の男に傷を負はせたりした事があり、更に尚彼ら幹部連の說に反對する組合員を混棒を以て追ひ廻すと云ふが如き事件もあるのである。

斯の如く理論を暴力を以て壓迫し、言論の自由は抑壓せんとするが如き（まるで警視廳がやりそうな）傾向を我々は痛く憂へた、それ故に再三その當事者に對して好意的に注告と警戒を與へた。實際勞働組合中でもつて自由な言論を壓迫し、一切を暴力を以て解決せんとするが如き傾向は



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

今や益々劇烈を加へて行く階級闘爭の味方の戰線に於て行はれることは力の分裂と戰線を紊すものであつた。然し乍ら我々の到底と好意による忠告によつていさゝかの反省もなさず、且つ幹部は常然かくの如き運動上に一大阻害を來す、憎むべき傾向に對して何んらの對抗策を講ぜざる以上陰に陽に、これを却つて宣揚した爲めにそれらの暴行者は白堊總同盟本部において平然として益々暴力を振ふことを高言するに到つたのである。この反動的傾向は更に一層恐ろべきものを産んだ。彼ら幹部連はドイツの軍閥の如き容貌を備へたる、或る有名な陰謀家と結び、自己の椅子を守り、地盤をかためるためにあまり汲々たる結果、我らが多年の主張が多くの犧牲を拂つて進んで來た合同主義の玉條をも捨てゝ（合同主義の爲めに總聯合の決裂を我らは犧牲にしたのだ）大崎支部聯合會の如きを設置したのは正しく彼らがいかに無能無政策であるかを以上に何んと都合のいゝ日和見主義者であるかを物語るものだ。更に加へて、關東電氣製作所との間に、總同盟執行委員の一人は組合運動家としてあるべからざる契約をしたる如き、且つそれに對して非難攻撃の聲ある度に幹部はこれを擁護し、日和見主義的理論家として有名な總同盟のある學者はこれを巧に理論づけて辯解したる如き彼等が如何に全無産階級に對して不忠實、無責任であり、むしろそれ以上に殆ど勞働者を食ひものにすると云はれても何ら辯解し得ざる行爲を敢て爲していたかがよく判るのである。

我々純眞で且つ社會主義を奉じ、無産階級の解放のために、一切を捧げた青年組合員等はどうして斯の如き幹部の腐敗、墮落を見逃してゐられようか。彼らの墮落腐敗よりも彼等の下に統制されつゝある多くの青年らが毒され、腐敗すゝ事に對して我々は絶叫せざるを得ないのである。我等はこのブルジョア階級と共に滅びんとするフハイ幹部に對して主義政策を持つて爭ふ必要はない。彼らには主義も政策もないのである。たゞ我々は全無産者の名を以て闘へばそれでいゝのだ。

◇

以上の如き大會前における幹部の醜態とその横暴と無能は遂に大會によつて、關東同盟會と云ふ一室から街上に投げ出されたのである。

大會當日に於ける彼ら幹部連がいかに横暴で且つ組織的に我々の言論を壓迫したかを事實に「退席理由書」中に發表したから是非それを讀まれたい。

我々は大會當日の事についてでは「退席」後の事について二三云ひたい。

我々四組合代議員が退席して總同盟本部に引きあげると間もなく、幹部達は、再び議席に戻つてはどうかと交渉にやつて來たが、議長が交迭されざる限り絶對に議席に戻らないことを聲明した。そうして幹部と我々の交渉は物別れとなつた後、我々は一應代議員全体に對して、何故に我々が退席したものであり、退席せざるを得なかつたかと云ふことを知らしめる必要があると云ふので四組合各自代表を選んで四人の代表が再び議場に戻つて、退席理由聲明の許しを議場に計つてもらつた時、幹部の尻馬に乘る一代議員は「彼ら退席したる四組合代議員はこの神聖なる大會の席上に於て社會主義を宣傳せんとしたものである云々」と云つて左樣な不埒な代議員共の退席理由を聽く必要なしとまで極言したのであつた。かくて我々の聲明は結極當日議場に於て爲す事が出來なかつたのである。誠に頑迷な大會當日の議長を組合長にいただき、その尻馬に乘る代議員の事とて、社會主義が何であり資本主義が何かをも見別のつかぬと云ふよりも、勞働組合は資本主義制度の肯定によつてのみ神聖であると考ふる、マクドナルド以上、ゴムパース以上の協調主義者である。我々は、彼の演說を別室で聞いた時無量の悲しみを感じた。かくの如き言辭が彼ら幹部の内から出ることは當然である。なぜならば關東同盟の執行委員にして鐵工組合の組合長であり、總同盟本部の中央委員であり、大會當日の議長であつた內田君は且つて日電爭議の際に應援團たる東部合同と關東印刷の組合員が爭議團に向つて、ストライキは一つの階級鬪爭であらねばならない單なる賃銀の値上が我らの全部ではない、我々は更に進んで社會主義國家の建設に向はねば眞に生活の安定もなにも得ることが出來ない事を演說した時、あはてふためいて內田君は演壇に上り、東部と印刷の組合員が今云つたことは間違ひであると云ふが如きことを云ひ勞働組合は社會主義を奉ずるものでは決してないことを極力聲明したと云ふ笑止にして且つあきれ返つた事實がある。この幹部の下に先の代議員の言あるはむしろ當然であつた。

◇

大會前においてつのりにつのつた幹部のフハイとダラクは四組合の退席によつて街上にさらけ出され彼ら幹部は少からず面食つたと同時にその反動的傾向は大會後に於て益々色を深めた。四組合提出議案をすべて葬り、勝手氣儘な獨り舞臺で大會の幕をしめた



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

彼ら幹部は[illegible]術であつた。意氣揚々たる彼らは意氣揚々と四組合代議員連に對して暴力と暴言を以て迫つた。大會翌日には彼ら幹部の一人は我々の内の一人を將に撲りつけんとした、然しそれは仲裁者があつた爲めに撲りはしなかつたが、その場に居あはせた多くの幹部達は「ヤレ、ヤレ」とかけ聲をかけて暴行者を煽動しその上揚言して「これからはビシビシやつつけろ！」と云つた如き事實は、彼らが大會後その勝利に乘じて益々反動化したことを雄辯に物語るものである。

この反動的傾向の增大は果然一つの重大な事件を叫び起した。

我々が先に述べた樣に大會前における幹部及びその系統に居る二三の者の暴行と横暴とによるその反動的行爲は遂に我々が憂へ、忘れてゐた結果を産んだのである。

撲られ、侮辱せられ何時までこの幹部の壓制に純眞な革命的青年は屈伏することが出來よう。遂に東京合同・横濱合同、關東印刷、時計工等の新進精鋭の組合員らは「我々の幹部を選り、理論を暴力を持つて壓迫し、加之に日和見主義的[illegible]組合主義的行爲を敢てする、職業化したる同盟の幹部に今や我等は反抗すべき時である。彼らは我らの同志ではない、むしろブルジョア反動主義者と何等の變りなき者である。故に我らは彼らの暴力に對して暴力で報ひ何らやましいものでない。むしろ彼らの魔手より我らが純眞なるべき兄弟を取りもどす爲めにも、更に全無產者の運動のためにも我らは徹底的に戰はねばならぬ」と云ふことを宣言するに到つた。この宣言は期せずして起つた十月十一日の鐵工組合理事會の席上に於ける一部幹部を、その幹部のフハイとダラクと横暴に怒る青年勞働者との撲り合ひ以後一般化されて、若き運動者らの信條となり、今や關東方面の有爲にして純眞な青年組合員を續々とその信條の下にひきつけつゝある。

純眞にして、忠實なる青年組合員がこの擧に出でたことは、むしろ當然であつた。撲られ蹴られ血を見るに到つた十一日の鐵工組合理事會席上の事件は我々が夙に豫言しつゝあつた處である。彼ら幹部連が未だ今日ほどフハイとダラクと反動化せざる頃、最初の暴力行爲について充分の注意と警戒を與へたにも拘らず彼らが何等反省せず、むしろ暴力行爲を宣揚し、直接間接に彼らに取つては苦手であり當の反目相手である我々四組合員及び鐵工の一部の者に絶ゑず暴力行爲の暗示を與へてゐた結果が、かくの如くなつたは當然すぎる程當然であつた。當日爲めに理事會を開くことが出來なかつた事で鐵工組合の理事諸君に誠に氣の毒な事であつた。四五名のフハイ幹部は足腰のたゝぬまで撲られた。撲つたものは勿論青年組合員であつた。撲られた連中には一寸氣の毒だが我々はそれに對して何ら責任を持つものではない。撲られた幹部自身がその當夜の暴行事件の責任者である。その種は彼らが播き、彼らは當然收穫するところのものを得たのであつた。

當日その暴行事件の後で直ちに演説會が開かれ革命を愛し、ダラクと裏切的職業化と官僚化に怒る若き勞働者等は立つて絶叫した「我々は二三の幹部のために運動を阻害せられる事を恐れる、我々は反動化した幹部等が今日最早同志ではなくむしろ我々の眞正な解放運動の妨害者であることを我々は知つてゐる。我々は彼らに對して何時までも屈伏してゐることは出來ない。遂に我々は止むなく今日の暴力行爲によつて暴力行爲に報ひたのである。我らは我らが今日行使した暴力は全然正當であることを信ずる。而して我々は今後尚彼らが暴力的に出ずるなら我らは飽くまでも組織的に暴力を行使することを決議したい」と云ふ痛烈な當日の暴行に關する聲明と決議が行はれたのであつた。

この青年の意氣は何處に進んで行くか。翌日同盟の理事會において絶對多數を以て再び幹部の位地に立つた處の彼ら日和見主義的反動的職業運動家共が獨裁權を握つた後の關東同盟の内部の事情がどんな風に進展して行くか今私は輕々しく云ふ事は出來ない然し乍ら少くとも次の事だけは言明し得る。

即ち、彼ら日和見主義的改良主義的幹部が何時までもその席を占めてゐたならば總同盟は結局第二インターナショナルの國際的裏切者らが陷入つたと同じ地獄に落ち、遂に日本の全勞働者をしてブルジョアに賣りつけるに到るであらう。然し若し幸に青年組合員の[illegible]を占め得たならば總同盟の日本勞働階級の解放戰における前衞と、先驅としての重大なる役目を遂行することが出來うるであらう。終りに我々は全國の青年勞働者諸君に告ぐ、今日我々は到る處に於て日和見主義と改良主義に對して徹底的に抗爭しなければならない時が來たしかして結局日和見主義に對する[illegible]に導くものである。

我々は今、總同盟の中に於てこの重要な戰を戰ひつゝあることを諸君の前に告げる



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 社會運動と進化論

原　茂　臣

（一）

社會主義を是認する者であつて、マルクスの階級鬪爭説を否定する者は無いであらう而して無産階級の政治運動と稱する以上、この階級そのものゝ存在とその意味とを理解し運動の方向に就いて、明確なる目標を有して居るべき筈である。私は茲に、階級の社會性に就て、マルクス説を祖述するつもりはないが、近來社會運動の境域擴大につれて戰線内部の不統一と共に、一般大衆の社會運動に對する意識の混亂を防ぐ爲めに卑見を述べさして頂きたいと思ふ。

フエビアン協會に籍を置く石川三四郎氏が、その機關紙「社會主義」紙上に於て或ひは講演によつて、進化論否定の宣傳をして居られる樣であるが、それがフエビアン協會と結びついてゐるだけに、不審に思はれてならぬのである

不肖淺學にして、石川氏の所説そのものに對して云々するの意志は有たないが、社會主義が無産階級を主體とする限り、進化論を離れて、社會運動の意味を解するに苦しむのである。勿論それも一個の社會運動であるかも知れない否社會運動は社會主義のみに局限されて居ないと云ふ概念をとれば當然それは社會運動の一種である。而もそれがはつきりした綱領を有するフエビアン協會の一部である。故に私は社會主義の立場から看過することが出來ないと思ふのである。

私が茲にフエビアン協會をとつて特に問題にするのは、現今日本の社會運動内に於てフエビアン協會が同身異名の觀ある政治研究會と共に、その本流をなすの勢力を有するものと思はれてゐるがためである。英國のフエビアン協會の綱領には、その首めに、「フエビアン協會は社會主義者を以て組織する」と書いてある。しかし、日本のフエビアン協會の趣旨書なるものは、社會主義を批評するが如き立場に於て書かれてゐる。そこに日本と英國との經濟的條件に依る相違が含まれてゐることゝ思ふが、またその點がより以上に、ロシアのボルセビズムとも全然異なる所以であらう。

（二）

廣義に於ける社會運動がかくの如く無定型性であるが故に、それぞれ飽くまで論議をつくして、その徹底を期せねばならぬ。だがそこには斷然相容れることの出來ぬ二つのものがあることは確かである我々は普通、社會主義の對角線にあるものを反動主義と名づけ、社會運動の圏外にあるものとして取扱つてゐる。けれども嚴密に云へば、反動主義も一個の社會運動である

吾々が社會主義の立場にあること、それ以外の社會運動を反動主義と呼ぶのは、社會主義が進化論の基礎の上に立つてゐるがためではあるまいか。社會運動がたとへ、無産階級としての要求であるにしても、それが、社會進化をもとゝする唯物史觀に立脚しないならば全く意義を失ふのである。虚無主義への危險がそこに潜んでゐる。

思想的に見たる野合、多分に幾多の抱擁的な雜然たる分子を構成要素とする、無産階級政治運動に對して、多少の危惧を抱かざるを得ないのである。

政治運動があらゆる社會運動を抱含するものであるかぎり、左は無政府主義より右は國家主義に至るまですべてを網羅し得ることに吾々は異議を稱へやうとするのではないしかし將來に於いて何等かの光明を見出さんとする吾々はそこに確固たる根本的指導原理を要求するものである。

英國勞働黨内閣が議會解散の運命に遭遇し保守黨と兩々相對持して爭ひ、自由黨が次第にその立場を失ひつゝあるは、吾々の注目に値する形勢である。その間に於ける英國共產黨の態度については、多少考慮の餘地あるが如く思はれるが、顧みて日本の現狀を見ること、不安の念を抱くべき幾多の問題を發見するのである。

（三）

フエビアニズムの勃興に對比して日本に於けるマルキシズムの凋落は何事を物語るであらうか。しかし要するに思想上の流行推移は深く念とするに足りないが、一般民衆並に組合運動の趨勢如何が、何處に根底を有するかを考へるとき、吾々はにはかに樂觀する譯にゆかぬのである。

いかなる無産政黨の成立を見るか知らないが吾々は決して漫然とその御膳立を待つべきでない。その出現と同時に必然我が無産階級運動は一大展開を來すであらう。

近來續出した共產黨事件の失敗は吾々の共に悲しむべきことであるがそれによつて日本に於ける、コンミニズムの運動が根絶したのではないのである。勞働組合に於ける共產主義者の排撃は、コンミニズムそのものゝ排斥を意味するのでなく、マルクスに依つて示された人類歴史の大道は默々として生物進化の奥底に流動してゐるのだ。



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 「リベツ化の傾向」に就いて
# 山田氏に答ふ

岡陽之助

山田有美太君。

久し振りで、君の所論を『進め』（十月號）で拜見した。君は、或る意味では、僕の單なる先輩とい君よりも、寧ろ先生である。君のあの論文――僕の書いた『リベツ化の傾向』（進め昨年十二月號）に對する批判――を讀んだ時僕はまつたく、先生から、答案の批評を聞かされる樣な氣がした。『怒る』所か、有難く拜聽した。殊に、君の『吾々の運動の危險は、今は左からでなくて、右からであることは事實であらう。』と言つた一句で、僕は、あの當時（昨年十二月）、あの論文で言はうとした全てが言ひ盡されたような氣がするので、こゝに折反し『批判に答ふ』等の必要がなくなつた樣にも思はれる。けれども『許すべからざる一句がある』とて終りから七行目の『優秀なるプロレタリヤの眞理そのものは、むしろ、大衆より孤立すべきを原則とせぬか』の一句を引きづり出して、「これは、プロレタリヤの眞理に對する冒瀆だ。」と止めを刺されたに對して、何だか僕なる者一言無かるべからざるを感ずる。

◇

「優秀なるプロレタリヤの眞理そのもの」と言つたのは、君の解する通りコンミユニズムを指したのだ。而も「そのもの」と特に餘計な假名をひつゝけたのは、實は、僕としては餘計なものではなくて、「眞理そのもの」といつた意味は、コンミユニズムの「學理」を指したつもりなのだ。

コンミユニズムの「運動」とは區別したつもりなのだ。つまり「コンミユニズムの學理といふものは、むしろ、大衆より孤立すべきを原則とせぬか」と言つたつもりなのだ。これは決して後からの（今になつての）コジツケではない事は、前の文章の「方向轉換」とは「運動樣式の轉換であつて、決して、コンミユニズムの原理そのものゝ修正でも否定でもない筈である。」と述べて運動と原理とを區別したのに見ても明かだと思ふ。

◇

僕は誰から叱られ樣とも、大衆といふものはコンミユニズムの學理に徹し得ないと信じてゐる。尤も革命後、教育機關の全部を擧けて、公然とコンミユニズムの學理を敎へ込めるやうな世にでもなつたら話は別だが（ロシヤの今日の如く）革命前即ち、日本の今日の如く、ブルジョア意識が根強く、大衆の頭を支配してゐる場合、コンミユニズムの學理を理解し得るものは、大衆の中の、極少數の優秀な人々だけの樣に思はれてならないのだ。實際、僕の眼にはそう思はれてならないのだ。理想としては、若しくは、遠き將來には、それは勿論、君の言ふ通り「コンミユニズムは大衆から離れては存在しない。」とも言へるし、「大衆から孤立するものは机上の偽コンミユニズムであり、ユートピアである。」と僕も思ふ。いや大きな聲で言へる。今日でも、僕は、君のように言つてのけるだけの勇氣がほしい。が、僕には、今の所そうは言ひ切れない、大衆をバカにするなとそこから努鳴られ相だが、僕の良心がそんな白々しいウソを吐かせないんだから仕方がない、僕は、やつぱり、コンミユニズムの學理は、あまねく大衆に徹しない、即ち「大衆から孤立する。」ものと信じてゐる。僕は、それ所ではなく、大衆といふものは、革命の前日まででは、無定見で、場合に依つてはしば〳〵反動的でさへある、と考へてゐる。だから、君の言ひ草ぢやないが、「組織宣傳と煽動」で、大衆のバラ〳〵な力を同一方向に統一して、その威力（そうなつた時始めて、大衆の力は、偉大なものであり、我々の唯一の味方だと僕は思ふ。）を持つて敵に當るのだと信じてゐる。

これをやるもの、つまり大衆煽動をやるものが指導者であり、前衛であると信じてゐる。革命は、決して大衆が、あまねくコンミユニズムの學理に徹して後、それではと、御輿をあげるようなものぢやないと信じてゐる。（尤も、徹底して呉れゝば、これに越したことのないのは勿論だ。徹するように、パンフレツトを出したり、雜誌を發行してゐることも勿論だ。）

そこで、僕は、甚だ強い言葉を使ふようだが、「孤立すべきを原則とせぬか。」と言つたのである。所で「原則」が誤解のタネのようだが「原則」といふ言葉を、なるほど、君のように取れば、全くあの一句は、「許すべからざる一句」に相違ない。僕は、一言もない。しかし、「原則」といふ意味を、そんな跪爪らしく解釋せずに、「大底はそうだ。」とか、「それが普通だ」とか位の意味を、強く言つたのだと解釋出來ないものだらうか若し、あの場合の「原則」を、その位の意味にとつて戴けば、あの一句は、こうなる。曰く「コンミユニズムの學理は、大衆には承け容れられないのが（即ち孤立するのが）、大底



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の場合は、むしろ普通だ。」と。僕の言はうとした心持は全くこれなのだ。今一ぺん、『リベツ化の傾向』を讀みかへして呉れるなら、きつと頷けることゝ信ずる。

君は同論文で、山川君の『新形勢と新方策』（進め今年一月）を批判した中で、『大衆は山川君の如く理論に徹底してゐない。冷やかに理論から割出して共產主義運動に參加する場合は彼等（大衆）にとつては寧ろ稀である。』と斷定して居られる。『寧ろ稀である。』君のこの文句が卽ち、僕が、君から許すべからざる一句として叱られた『寧ろ、孤立するを原則とせぬか。』に相當するものではあるまいか。さて、かうなると、言葉の相違こそあれ、君は、僕の言ひたいと思ふことを、完全に言つて呉れたような氣がしてならぬ。

◇

そこで、僕、思ふに、いくら、地震で、今まで味方だと思つてゐた民衆から、竹槍でオドカされたからといつて、大急ぎで、理論までも修正して、大衆に媚る必要はない。大衆の中へ入つて行けと言ふことは、何も、大衆の有つてゐる理論に歩調を合せようといふことぢやあるまい。大衆今日の思想に卽して、コンミユニズムといふ立派な思想までも、灰色にしたり、黄色く染代へたりすることぢやあるまい。大衆よりも、六ケ月も、一年も、若しくは十年も前の事が、明確に洞察出來ない者を、僕は、思想家などと假りにも呼べたものぢやないと思ふ。忘れもせぬ、大正十二年の春、無產階級政黨樹立の問題を提て、某巨頭を訪れ、その意見を叩いてみた。言ふ迄もなく、大いに啓發されんとしたのだ。

所が巨頭氏は、何の定見も有たないのみか『どうも皆の世論になつて來なくては困る例へば、假りに、今、○○君が、○○君の希望せざる勞働黨樹立を主張してみたまへ。たちまち、會から除名されて仕舞ふからな。』といふお答へであつた。因に、今日では、その○○會は、勞働黨樹立で大童である。今一つ、想記することは、山田君。君のよく知つた某君が日本で最初のプロレタリヤ政治運動を主張したパンフレツトを出そうとした時だ。僕等は、發行者だし、且つその主張者だつたので、ぜひ某君のそのパンフレツトを出したかつた。所が、驚くぢやないか、阿衆先生達が、某君の袂をひかへて、盛んにそれを阻止するのだ。その言に曰く。『我々は、此の主張に素より賛成だが、今、組合側は大体、政治運動を否定してゐる。組合を敵に廻しちや仕事が仕にくいから、今少し、發行を後らして呉れ』と。僕には、この阿衆先生達の心持が、如何とも解しかねるのだ。今日組合の諸君が反對してゐるから、明日もそうだとは言へまい。また、假りに、組合側で反對する思想でも、正しいものであれば、それを、公然と示して、その批判を聽くべきではあるまいか組合を神棚みたいに崇り上げてしまつて『神聖にして浸すべからず。』さわらぬ神に崇り無しとなすが如きは、一つには、眞理をそれこそ冒瀆するものであり、また一つには組合を侮辱するの甚だしきものである。阿大衆、阿組合心輩の此の根性が、どんなに僕達僚輩を迷はしたことであらう。大衆、右に動けば我れ右に動き大衆、左に行けば、我もまた左に行かん。といふのは、如何にも、大衆に忠實なように聞こゆるが、それは、大衆に阿ねるものだ、迎合するものだ。大衆にオベツ化して、自分の持する思想を大衆の思想に淫せしむるものだ。オポチユニストだ。斷じてコンミユニストの取るべき態度ではない。永井サンといふ議會の『新人』がゐる。僕は、永井サンの思想ならば、どうやら、大衆の思想と歩調を合せて行けると思ふ。だからといつて、僕等の同志が、永井サンの思想にまでなつて仕舞ふことを、僕は嘆かずには居られない、山田君を永井化せなければ、今後の社會運動は失敗だといふ。そういふ一般の見解を、僕嘆かずには居られないのだ。思想そのものまでも、そう染代て仕舞ふのを嘆かずには居られないのだ。言葉を換へるとこうも言へる事實、永井柳太郎の思想程度の男（リベツ化した阿衆先生達）が、時こそ至れりと社會主義運動の中堅に乘り出していよ〱乃公の出る際だ、これまでの社會主義者は皆、社會運動には落第だ。と、その男もかく信じ、同志一般も、かく信ずるように成りはしないかといふことを、僕はあやぶまざるを得なかつたのだ。『リベツ化の傾向』とは卽ちこの嘆くべき傾向を言つたのである。

僕の觀察が的中したら若しそうだつたら、獨逸の社會運動か墮落したの、リープクネヒトを殺させたのはシヤイデマン一派だの修正派は革命運動を毒したのと、他樣の蠅は追へない譯である。今に日本の主義者が笑はれるような事にならねばよいか。山田君の言葉を拜借すると『桑原々々』である。

山田有美太君。

それから、君が僕に贈つた『小乘教徒』の演說は、僕の歸國の日まで、當分、大切にあづかつておかう。運動の方法や政策の問題に須からく膝を交へて談ずべしだ。（十月十七日編輯室にて）

# 議會か□□か

## ——一に彼等の態度に依る——

石川準十郎

（一）

「資本主義の制度は、自然の資源並に生産力を適當に利用し且つ組織することにも、又國民の大多數に對して必要なる生活標準を備ふることにも、共に失敗した。そしてその失敗の原因は、生産機關及び分配方法の私有と私的管理とに在る。」（英國勞働黨が昨年議會に提出せる社會主義議案の前半句。この議案は激しい討論の後、贊成百二十一票反對三百六十八票で否決された。かくして勞働黨は十二月の總選擧に臨み一擧にして百四十三名より百八十五名に増加し、今年の一月二十二日遂に内閣を組織するに至つた）

[illegible] 住 [illegible]。「[illegible] 在 [illegible] 言）

この切迫した現資本主義社會には二つの運命があり得る [illegible]

（二）

[illegible] はの [illegible]

[illegible] マルクスは云ふ。「[illegible] 々は、種々なる地方の制度や慣習や、慣例やを考慮しなければならぬと云ふことを知つて居る。そして吾々は、米國や英國の如き國々では——もし私がこの國に於ける制度をもつと知つて居たならば、私は多分それに和蘭を附け加へるであらう——勞働者が平和的の經路で彼等の目的を遂し得ると云ふことを否認するものではない。然し一切の國々で皆さうだと云ふ譯ではない [illegible]」と（クノーの「マルクスの歴史社會國家學説」の中に引用。河上博士の「[illegible]」[illegible]。）[illegible] る。而してロシアのボルシェビキの政治革命は「暴力」に依つたものであり、英國勞働黨の行き方は「議會に依る平和的方法」をとつて居るものである。

（三）

[illegible]」而して英國勞働黨の領袖ヘンダーソンに依れば「勞働黨は、將來の民主的國家で暴力的蜂起と混亂との中 [illegible]

問期なくして建設され得ると云ふことを、實際の經驗と成功とに依つて立證せんと欲する」ものである。（然し如上の如き●●●●産主義と社會主義の區別の立方は、私に依れば、決して當を得たものではない。然し此處では暫く別問題である [illegible] る。[illegible]

[illegible]「日本フェビアン協會」の出現の如きはその大きな象徴ではあるまいか。恐らくは「勞働組合同盟」も又英國勞働黨の行き方を採つて居る様に思はれる [illegible] に反して今 [illegible]



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

（以下十九行削除）

……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………

ない。

（四）

（以下七行削除）

……………………
……………………
……………………
……………………
……………………

……それはマルクスの言ふが如く「その國の事情に依る。」そこに、卽ちその國の事情を斟取してその事情が生む力を應用して行く所に、マルクス社會主義の「科學的社會主義」たる所以が存在するのである。

隨つて英國の如く「平和的方法」に依る「政治革命」達成の可能性のある所では、その方法で行くべきである。それはその國にとつて社會革命に至るべき眞正の道である。何故ならば由來人類は本能的に最小の犧牲を以て最大の結果を獲ようとする性質のものである。それは丁度水は低きにつくと同一性質である。此處に一つの目的があつて二つの達成の道があるとしたら、彼は必然的に抵抗の少い道を選ぶ。（以下三行削除）

……………………
……………………
……………………。それは空想的社會主義に墮するだけのことである。大衆から分離して。たゞ自己滿足、自己陶醉にひたるだけに過ぎない。

この方が餘つ程「骨抜き」で「俗化」で「日和見」である。何故ならば、出來ないことを主張して威張つて居る位容易なことはないからである。人類社會に於ける困難乃至尊さは出來ること乃至出來る方法を見出して實際に出かす所にある。

之に反して露國の如き國に於ては、「〇〇方法」で行くのは當然である。ロシアは世界に比を見ない專制國、虐政國であつた。斯の如き國にあつては、「議會方法」「平和的方法」の方が空想的社會主義に

（以下十一行削除）

……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………

科學的である。

（五）

（以下十九行削除）

……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………

……………………それは悲しいことである。然しそれは事實である。

（以下十二行削除）

……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………

……………………而も被害者側より告訴せるには拘らず勿論何等司法權の發動を見なかつた。早大界隈は一時無政府狀態に陷り非軍國主義教授の數名は自ら護衛を備つて講義に通つた。皮肉なことには軍研團學生の主なる者には憲兵が陰の如く附き添ふて護衛して居た。私の如きも當時その渦中にあつて親しく苦驗した所である

（以下十三行削除）

……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………

……………………いか。

エンゲルスは「平和的經路に依る私有財産の廢止は可能であるか」と云ふ問に答へて云つた。「さう云ふ事が起り得るのは望ましいであらう。そして共産主義は決してそれに反對するものではない。然し乍ら彼等は又殆ど總ての文明國に於ける無産者の發展が強壓的に抑壓されて居ること及び斯することに依り……

（以下二十五行削除）

……………………
……………………
……………………



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

……………………………………
……………………………………
……………………………………
……………………………………
……………………………………
……………………………………
……………………………………
……………………………………

るものではない。（完）

（本文は其筋の注意によりその大部分を抹殺するの不已得次第となりました。執筆者及び讀者諸君、宜しく御諒察を乞ふ。）

（廿五頁より續く）

亦、如何に重要なる階級と雖も其の獨裁政治或ひは、その間接的支配を欲せず。」

「吾黨はデモクラシイの純正思想と生死を共にするものである」と聲明して、議會主義者のデモクラシイに對する最後の態度を明白にせることに依つても知ることが出來ると思ふ。

從つて、議會利用說は、あくまでも反議會主義の純正思想であつて、現實政策に於ける類似又は一致の如きは、事

る資本主義崩壊の行程に於ける妙味ある珍らしい政治的悲喜戯に外ならぬのである。

果して、日比谷座の政治舞臺に於いて、老獪なる資本階級の千兩役者が千樣萬態のしなを作つてプロレタリアをデモクラシイの領域におびき込んで、「投票權を持つた家畜」たらしむることが出來るか、それとも又苦勞人の無産階級に巧みに利用されて最後のどたん場まで誘惑されて、まんまと、背負投を喰ひ「搾取者の搾取」の幕がきりおろされるかは、專ら實際運動上の役者の腕と膽との問題である。

之を要するにマルクス主義の政治行動は、議會行動の利用に於て、議會政策にも社會政策にも其の他の合法的政治行動にも明白に特殊の效果を是認する。

がマルクス主義の議會行動に於ける表現には一定の限度がある。

單なる議會主義者がデモクラシーの最後の硬化に臨んで總有醜形を演じつゝこれと生死を共にせんとする時が議會利用論者がデモクラシーの破產を宣言して光榮ある議席を蹴つて大衆の中に復歸すべき時である。

若しも彼等が此の最後の破裂點に立つて、尚も議會利用の名に於て、議會及議會政策其の他に戀着してデモクラシーの暖帶に止まるならば、彼は明白に議會主義への屈服であり、マルクスを冒瀆するものと言はねばならぬ。

マルクス主義は議會行動の利用に於て、卒直に民主的合法運動の效果を是認する。

がそれはそれ等の政策自体に目的を肯定するが爲めではなく、將來に豫想する反民主的非合法運動への手段を發見するが爲めである。

（以下七行削除）

……………………………………
……………………………………
……………………………………
……………………………………
……………………………………
……………………………………而も

其の孰れをも排斥する。獨立の原理たる所以と言ふ可きである。（一九二四・九・一）

（十五頁より續く）

（二）十八日迄は松本氏から數次脚氣の症状を訴へられ、且松本氏は九月八日から同十六日迄病の爲差入れを中止して居つたにも拘らず、刑務所では脚氣症を訴へを聞き流して之を取り上げなかつた事（證據刑務所記錄及び差入店證明）

（三）十八日に初めて脚氣患者として投藥するに至つたのは、豫審廷で脚氣麻痺の結果顚倒負傷した事實がある爲である事（證據小林豫審判事が花山氏への言明と、解剖の結果による顚倒の際負傷模樣）

（四）松本氏を病室に收容したるは斃死の當日（廿四日）にして重症通知にある七月十六日刑務所收容以來とある事の全然虚僞なる事（證據刑務所公文書病床日誌及醫務主任の言明）

（五）九月十・日迄松本氏より脚氣病の訴へありしに拘らず、之を取り上げざりし事は、刑務所內事務の不統一、且不親切なりし事及び十八日に脚氣病たる事を認め乍ら後一週間を出でずして心臟症を惹起する險ある事を診斷し得ざりしは、全く刑務所技手擔當醫の重大なる手落—即ち過失なりし事、（證據—解剖の結果心臟の肥大甚だしく一週間前の脚氣病診斷に於て、相當の醫師が相當の注意を拂へば、必ず之に氣付くべき筈なる證明及び刑務所當局の自認辯解）

（六）脚氣病と確認したる後に於て相當治療の投藥を爲さざりし事、（證據—民島ドクトルの處方調査及び他の醫の一回もビタミンの投藥を爲さざりしとの言明）

七　斃死前五日間位は絶食の狀態にありて、其の狀態は本人の食慾不進か、食毒嘔吐か、食事禁止か何れかに該當し、全く重症に陷り居れること（證據、解剖の結果、胃腸に食事攝取の痕跡を存せざる事實に依る）

（八）以上の如き重症患者に就いては、刑務所當局より其の旨を裁判所に通知すれば、裁判所にては保釋責附の方法を取る事と爲り居るにかゝはらず、刑務所にては松本氏に就て、二十四日夕刻迄其の手續きに及ばず、廿五日死亡後保釋の決定ありしも間に合はざりし事（證據從來の取扱と各關係者の言明）

七、

細密に渉りて糺彈事項を擧ぐれば二十四日午後九時十分に死亡した松本氏の死に目に會はせる爲め重症通知が、普通郵便で廿五日に平野氏の處へ到着せしめた非常識や、着衣其のまゝの納棺等頗る不親切なる取扱に就いて彼等の謝罪と今後の改善を要求しはじめた點、尚此の外にも澤山あるが、大体以上の如き事實を確めて水平社同人及び私等が松本氏の斃死に挾んだ疑問は、單なる疑問ではなくて、的確なる刑務所當局の手落ち即ち〇〇〇〇〇〇、言へば刑務所收容の疾病者に對し　施すべき〇〇〇を〇〇〇〇〇〇なかつた結果を斷定した。

×××以上各種の確證に依る斷定に就いて、幾多の所見を有するが、今こゝでは事實の經過と結果とを報告して、之が判斷と今後の處置とは、松本源太郎氏今回の斃死を悲しみ憤ると共に、現在、將來松本氏と同じ運命に置かるゝ兄弟達の爲めに、悲しみ憤る諸君等の考慮と決心に任せる。

（完）



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 議會行動に於けるマルクス主義(二)

久保芳朗

かくの如く、マルクス主義は明白に反議會主義である。が議會主義の排斥は、決して議會及びデモクラシイ其のものゝ否定と同義語ではない

マルクス主義は、デモクラシイを以て資本主義から社會主義への第三の立場――中間的政治形態――なりとする見解即ち議會主義を排斥するものであつて、階級間の闘爭の手段としての議會及デモクラシイをも否定するものではない。

言ひ換へれば、マルクス主義でデモクラシイを以て階級闘爭の一術策なりと解し政治的協力――籠絡乃至は、緩和――の手段から政治的爭闘の武器に變ずることに依つて、之に過渡的の利用價値を肯定するものである。

即ち彼によれば、手段としてのデモクラシイには自ら一定の限度があり、結果としてのデモクラシイは單なる過渡的政治狀態に過ぎないことになる。

近來社會主義者間に專ら論議の主題とされてゐる議會利用說は全く此の理論的見地に出發するものであつて、詳しく言へば、資本階級の自己保全を目的とする、政治的自制――デモクラシイの擴大――が必然に伴ふ所の自己否定への反作用を階級闘爭の立場から利用せんとするものである

マルクスは彼の社會革命の理論に於いて、無產階級による政治權力の獲得即ち政治革命を以てプロレタリア解放の第一の要件とした。

然るに彼は同時に、無產階級による政治權力の獲得は、デモクラシイの安定の上には不可能であると主張する。

それはプロレタリアの政治行動は、究極に於いて、プロレタリアの獨裁に集中せらるべきであつて、爭闘による革命なしには不可能だと主張することである。

從つて彼の政治革命に關する見解は、當然に強大なる無產階級の政治的勢力の組織即ち『政黨に於ける第四階級の組織』を絕對に必要なる豫件とするものである。

而して、プロレタリアの政黨への發展の行程に於いて、デモクラシイの名に於いて齎らされる各種の政治權利の保證――普通選擧、出版結社の自由・言論集會の權利は、皆悉く必要なる一個の手段である。

若しプロレタリアが此等の必要にして有力なる武器ヶ利用することなくして、運動の將來に豫想する階級間の直接的爭闘に勝ちを制し得ると夢想するならば、それは單に望ましき空想に過ぎない。

そこでマルクス主義の政治行動は、政權獲得への發展の行程に於ける避くべからざる必要から、其の運動の一端を議會利用として、合法的政治運動の形式の下に議會の内部に表現する。

即ち理論としての議會利用は、議會を通じて、現實としての議會政策となり、議會に於けるマルクス主義の政治行動は、デモクラシイの硬化せざる限度に於いて、單なる議會主義者の政治行動と全く同一の政策に於いて表現するのである。

此處に於いて、マルクスの議會利用と單なる議會主義の概念上の混交を生じ、修正派の社會主義者をしてマルクス主義を曲解する有力なる好辭を與へることになる。

けれども、理論としての議會利用が現實としての議會政策の肯定であることによつて直ちにマルクス主義の反議會主義的態度の破產を叫んで歡喜雀躍するが如きは餘りに近視眼的早計と言はねばならぬ

なんとなれば、第一に現實的政策の類似又は一致を以て直ちに運動の目標に於ける將來の不一致をも抹殺し去らんとすることは餘りに事大主義的妄論である。

然のみならず、現實政策の一致點にのみ就いて見ても、議會主義者がプロレタリアの解放を個々の議會政策乃至は社會政策それ自体の中に肯定し、其の無限の集積の上に新社會の基礎を求むることに反して、議會利用論者にとつては之等の現實政策はプロレタリア解放の單なる手段であつて目的點個々の政策はそれ自体飽迄も反革命階級の自己保全策であつて若しプロレタリア運動が民主主義的論理思想によつて其の方向を指導されるが如きことがあるならば、それはむしろ恐るべき反革命的誘惑であり得ると見ることに於いて、同一政策に對する兩者の心理的根據は全く相容れざるものである。

言ひ換れば議會主義は資本階級の自己調節作用其のものゝ側に立つて、議會政策自体に目的を肯定し、個々の政策の上にデモクラシイの安定を夢想することに反して、議會利用說は其の反作用の上に立つて、議會政策自体の中にデモクラシイの否定即ちプロレタリアの獨裁への單なる手段を發見するに止まる點に於いて全く混交すべからく紅白の相違である。

獨逸の社會民主黨が其の宣言の一部に『吾人は資本家征服を許さぬ、けれども吾人は

――(廿四頁へ續く)――



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

研　究

# 近世社會主義史（三）

## ――ドイツ社會主義――

春田　正

### ラッサール

一八二五年、フランス及イギリスの社會主義はこれといふ結果を殘さないで一先づ終りを告げた。これよりドイツ及ロシアの社會主義の活躍となるのである。一八四八年の革命にはドイツに於ける社會主義も一つの役割を演じたが、彼等の運動が眞に歴史的となつたのは彼等に屬する。獨逸に於ける社會主義者の主なるものは、マルクス、エンゲルス、ラッサール及ロードベルトスであるが、中でもラッサールは獨逸に於ける社會民主運動の創始者として歴史上に捺印せられた最初の人であつた。

フェルヂナンド・ラッサールは一八二五年、プレスローで產聲を擧げた。彼は國際社會主義の巨頭カール・マルクスと同じくユダヤ系統である彼の父は有福な商人であつて、彼をその後繼者として、商業學校へ入れやうとしたが彼はそれを嫌つて大學に入り、言語學、哲學を專攻した。彼は卒業後パリーへ行き詩人ハイネと知り合ひになつた。ドイツへ歸つてから彼は一伯爵夫人の訴訟事件に加擔し、世間の惡評を買つた。一八四八年彼は常時革命側の社會主義及急進民主々義を代表するマルクス、エンゲルス及フライリグラート等と交通しライン地方の革命に活躍した。

此の革命の期間は彼の經歴中ホンの短期間を占て居るに過ぎないが、それは彼の性質をよく表して居るものである。元來彼は學究的であると共に一面非常に實行的性質を有して居た。

一八六一年、ウイリアム一世がプロシア皇帝の地位に登るやビスマルクは擧げられて首相となつた。當時ドイツはヘーゲルのドイツへ、ビスマルクのドイツから哲學と理論の塔から戰爭政治、產業方面の實行的國民生活の野へと步みを進めて居た。

ビスマルクは軍隊の効果を信じ軍隊組織の擴張を劃てゐたが、自由黨は之に反對を唱へ、互に反目するに至つた。

常時ドイツの勞働者階級は普通選擧に反對意見を持つて居た自由黨に對して快からず思つて居た。此の時暫らく活動力を休止して居たラッサールが現はるゝに至つた。

一八六三年ライプチヒに於いて總ドイツ勞働者組合が組織されるやラッサールは推されて組合長となつた。この組合の綱領は次の如くである。

勞働階級は彼等自身の階級の社會的目的を代表する一の政黨を作るべきである。而してその基礎として普通選擧を要望する。

斯て彼等は平和的合理的方法によつて、輿論を喚起し普通選擧制の設立のために奮鬪した。

ラッサールは非常に雄辯家であつた。彼が組合長となるや、その活動振はすさまじいものであつた。或ひは著者として、或ひは組合長として、屡文字通り不眠不休の活躍を續けた。此の彼の雄辯と熱心は多くの勞働者を自由主義の迷霧から醒ました。併し乍ら此の好漢も遂に一八六四年ある婦人との戀愛問題から決鬪を申込み未來ある生命を落すに至つた。

ラッサールの社會主義者としての地位はマルクス、ロードベルトスと同位に取扱はるべきものである。彼は兩者に卑益せられたことは確ではあるが彼の偉大なる創造力は歴史的社會主義に對して獨自の見解を持つて居た。

資本は長い歴史的過程を經て今日に及んだ。而して經濟上の變化と共に政治方面も之と共に變化し、今や資本家は產業上の支配者となつたと共に政治上の支配權をも持つに至つた。

ラッサールは云ふ。彼等は始め自由のために選ばれたる人々として戰つた。而も今や彼等は斯して得た特權を以て唯々自階級の利益のみを計るここに至つた。然るに勞働者は社會に有用な勤勞を喜んで提供し、人類一般のために常に活動しつゝある。此の勞働者こそ來る可き新世界を作りその世界の支配者となるべき要素を持つてゐるのであると。

然し乍ら今や彼等は賃銀鐵則の鎖につながれ、此の大使命を果すべき機會を持つて居ない勞働者の平均賃銀は單に彼及彼等の家族を養ふに足るに過ぎない。（未完）

### 宣傳隊のことば

九月と十月この山陰地方の宣傳旅行は、陰鬱な空氣と、雨と、官憲の監視と、暗らく冷めたい留置場の身を削るやうな迫害と、炎ね上る反逆の旅であつた。

寢込みを襲ふて檢束して二日間も投り込んでおいて後の檢事局送り、罪名は新聞紙法違反、斯くて僕等も殺人、强盜、播拂と同じく前科一犯のくせ者とはなりにけりだ。

旅行中御後援下さつた、同志諸君に御禮を申します。

（進め宣傳隊第一班樋口生）



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

―青年運動―

# 青年運動の第二期進展

佐藤光敏

進め社は是れからの運動方針を「進め」同人が寄り集まつて協議した結果、何うしてもそれは青年運動に重きを置かなければならぬ、と云ふ事を決議した。それは私達も、從來から考へてゐた事であつて今更始まつた事ではなかつたのである。

然るに最近、吾が日本の思想界、政治界の現象を見るに實に見るに忍びない所の墮落さを眼前に見せつけられてゐるのである。

是に吾が進め社は、敢然として、此の墮落を救濟せんが爲、政黨樹立の結果の思想的變化を慮かり（實に現今でも慮ばかつて居る）其の政治的政策を粉碎せんが爲、此處に青年の決心を促がさんとの決意の下に青年運動の復活進行を企劃したものである。

然して、讀者諸君も青年運動の希望、意見、感想等思ふ所あらばドシドシ寄稿されん事を冀ふ。（係り）

一

往年、青年運動が盛んでおつたが昨今は全く火の消ゑた樣に何んにも云はなくなつて了つた。

從來の青年運動は一つの反軍國主義運動其のものだつたと云へよう。日本の青年運動誌を見ても直ぐ判る事である。それは露西亞共產黨の軍國主義に對する猛烈なる反逆運動であつたのである。そうしてそれは、可成り全歐州の資本主義的軍國主義國家を震撼せしめた。一時露西亞ソヴヰエツト政府は軍國獨逸の爲に降伏した。けれども其の報はさしもの軍國獨逸をば、完全に根底より覆へして了つたのである。それは政策として一時降伏したものであつて獨逸は其の手中に乘つた譯である。

それより、白耳義に於ても「我が軍隊は余の命令の思ふまゝならず」と時の陸軍大臣を嘆息せしめた程、白耳義の青年軍人は赤化してゐたのである。

二

それの如く二三年否、震災前迄は其の運動が吾が日本に於ても可成り猛烈に叫ばれてゐたのである。それが昨年の震災より急激なる思想的・政治的變化を見せてから青年運動の聲も聞かなくなつて了つた。それはアマリに急激なる變化と云はなければならぬ。

私は此點について、少しく考へて見たいのである。

先づ其の一因を爲すものは思想的變化であると思ふ。震災以前に於ては吾が日本は、純然たる露西亞流のボルセヰビズムを以て終始してゐた。それが震災後になつてからと云ふものは全然、變つて了つたのである。それは英國勞働黨の內閣組織に據つて愈ハツキリとして來たのである。

それと共に吾が國の有力なる勞働團體なども其の幹部の腐敗に連れて漸次、露國流より英國流の行き方に變化して行つたのである。青年運動の消長も略此の邊にて明白だらうと思ふ。

三

吾等無產青年は此の重大機期に對して無關心であつてはならない。我等は此の思想的政治的危機に對して重大な抗議を爲さねばならぬ義務がある。吾等の考ふるべき時は將に此の秋でなければならぬ。

[illegible]

吾等の運動の一切は「行動」其のものにあるけれども、其の行動の一切を支配するものは「精神」其のものであると云ふ事を忘れてはならぬ。「現實」の偶像を崇拜して其の「理想」を忘却する者は最早、其奴は「主義者」でも何んでもない者であつて單なるオツポチユニストとしての價値を有するのみである。

四

私は今、切實に要望するものは何よりも、青年運動である。近來地方勞働組合の急進青年の間に又々反軍國主義的運動の萠芽が見ゑ出した樣である。而し、私は只だ其の運動だけには滿足しない。私の熱望して止まないのは此の思想的、政治的變化即ち、[illegible]。然し乍ら、現在では社會運動界總てが議會を肯定してゐる。私も其れには反對はしない。が吾等青年の重なる任務は此の議會肯定に伴つて起る所の議會主義墮落の救濟（まここに救濟して貰ひ度そうな顏をしてゐる議會屋がウヨ〳〵してゐる）と然して現ブルジョア政治の政策に對して徹底的の抗議である。非常なる決心を以て此の思想的、政治的の墮落を救濟し、それに伴ふ現ブルジョア政治の社會運動に及ぼす政策の利害を考察し、それの社會運動に害ある時は徹底的糺彈を斷行せねばならぬ。

我等の運動は大きな組織が必要である。組織なきものは空中樓閣的思想の所有者たると斷ぜざるを得ぬ。私は青年運動を指導すべき全日本を統轄する程の青年運動團體が欲しい。而して私は、青年運動の社會運動に於ける重大なる役割について後日述べたいと思ふのである。（完）



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 青年運動への希望

大路龍一郎

漸く具体化されんとする全日本無産青年運動の出發に當つて全國的結合を如何なる方法に依つてなす可きかゞ先ず當面の問題である。漸時その運動の實際的の機に運び大きく共小さく共青年自体の力に依つて成るものは經濟的に出發し或るものは思想的に出發し種々形体を異にした運動が起されつゝある事は事實である、然しそれ等は單にその地方に於ての局限的運動であつて從つて全無産階級の解放運動の一線に近づく事が餘りに遠いが爲に常に龍頭蛇尾に終り、その運動の程度も何時までも同程度に止まり解放運動の重大な役割を持てる青年運動の眞實的圏内に進む事の出來得ないと云ふ事は、前提した全國的結合がない事も基因し、そして二つには具體的な青年運動としてなす可き仕事を見出さず漫然と青年の意氣のみに依つて動いて來た爲めにその結果として一時的の運動に終つたのではなからうか？全くそれに基因してゐると思ふ。

現在の日本に於ける青年運動がそうした原因に依つて青年それ自體の力に眼醒めながら伸びる事が出來得ないとするならば、それに對する力の活用を與へる事に依つて眞の青年運動の役割を遂行し得る事は火を見るよりも明かである。

その力の活用それは、青年それ自體の全國的結合に依る數の活用でなければならない

無産階級の解放戰線に於ける力そのものは何時も數の力であるが、與に青年としてそれ自體の運動を起さんとする前には、必然に無産階級中に於ける活動の中心力としての青年の數の力に眼をそゝがなければならない、此の數の力の眼をそゝいだ時に其處に當然せなければならない、此の數の力に眼をそゝいだ時に其處に當然せなければならない仕事は、全國的の結合である

そして今漸く理論の時代から實際化の時代に移らんとしてゐる無産階級の政治運動に對して此の數の持主である無産階級の青年が如何なる程度の役目を持つてゐるかと云ふ事を見る時に、それは當然にその中心勢力は青年にある事は言ふまでもない。

そして又此の運動を起さんとする出發に際して全國的結合も盛さんとするに當つても單なる思想的に出發し若しくは階級的利害に依つて出發をするよりも先ず當面に掲げるものは青年それ自體の政治運動である方が結合と云ふ點に於ても好結果を齎す事と思ふ又實際に於てもそれが當面に缺く可からざる運動方法である。そしてその具體的運動の目標を與へる事に依つて目下の行き惱みつゝある現下の青年運動に一つの進む可き路を開く事も出來得るであらう。然しそれが青年運動の成す可き、又持つべき全部でない事は敢て言ふまでもないが當面として又その第一歩として必然に歩まなければならない進路である。

こうした意味に於て目下の日本に於る青年運動は、政治運動の圏内からその一歩を出發して往く可きである事を主張する。

その理由としてもう一つは目下の日本に於る青年運動は都會よりも農村に土臺を置かなければならないと云ふ處にある。何故なれば都會に於る青年自覺せる青年は組合にあつて組合運動にその力を集中されそしてそうする事に最も都合の良位地にある。だから此の種の運動の圏内に入る事は當然に力の分割の免れない大體に於て組合運動も青年運動も本質に於て同一のものであるが故に力の分割は餘りに當を得た方法でもないと思ふ此の組合運動と云ふ點に於て農村に於ける小作組合にはその局に當つて鬪ふものは家長、所謂老人組である、それ丈けに當面した經濟的利害に依つてのみ動かされるものであつてハッキリとした階級的立塲に立つての鬪爭でないであるが故に當然に農村に於ける鬪爭を階級的に立塲をハッキリと持たすには、何うしても農村青年を動かす事にあると倶に全無産青年の數から言つてもその大半は農村にある

そして此の農村青年をして動かさうとした塲合に思想的にそれ等を動かす事は可成の困難が伴い尚且つ反動的勢力を暗に醸長さす恐れがないでもない。

こうした點から云つて無産青年黨（所謂政治的色彩を最も濃厚にした運動）組織から喰入る事が當面の方法ではなからうか。

兎に角現下の青年運動は、無産階級政治運動の一部門でなければならない、然しその政治運動の裏面に潛在する處のものは [illegible]

そしてその次に來る問題は組織の問題であるが、これはこうてい少數の紙面に書き盡される問題でないが故に大體に於て今實際化せんとする全日本無産青年同盟に對する希望のみに止めて置く。



Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 監獄部屋

# 脫走記（一）

山田靜兒

僕は、此の進めに、此の十一月號から續きに、四五回位の程度で、書かしてもらひますから、どうか諸君、文章は不得手、だが、此の全文章の內から、一ツでも、いゝから何物か、諸君の、御參考に、なれば、滿足なんです。

吾れ等は屋外勞働中でも、最も過激な勞働に從事し、尙ほ我が極東の總ての文化の基礎は、吾れ吾れ土方の手によつて創造されたので有るに世人は、今尙ほ、此の土方を、人類のセンター外に逐かんとする人の現に存在して居る事を僕は知つて居る。此の秋に吾れは社會階級鬪爭の第一線に名乘りを上ぐるに就て、今だに救われざる兄弟の有る事と、我が國資本主義は、可酷迄に搾取の手の擴汎ならしめて居るかを、僕自身が決行致して來た、事實談ですから。

藤森先生、及び、江口先生が書かれた事が有るけれ共、藤森氏のは、パックの脫走後の話しを書かれたし。

江口氏のはパックを「ツル」までの少し計り書かれた、だけなんですから僕が、書く氣になつたんです、最初に云ふて置いた如く、僕は文士ぢや無るから、名文章を書く分けに行かんから其この處は、察して吳れ給へ、僕は妻子を、捨て運動するんですからもう世の中に忌しい物は無るんです。

僕は以前、土方時代は、川保龍司と云ふ者でした、當時の親分は、遠藤組の名義人であつた、遠藤平治氏です。

橫濱市に長い事、九尺二間に住んで居たから、僕の顏を知つて居る、同志諸君も有るでせう、目下、東京府下大井町水神下二二三一に居りますから、惡い所は御投書下さい・前提として、此の監獄部屋の內幕話から、人夫の階級別を書て置かう。其れで人夫の種類が二種に區別される　北海道で募集した、人夫は之を「タユ」と云ふ、此の「タユ」と云ふ名は何故に出たかと云ふに北海道では函館、小樽、サッポロ、旭川、等に、此の人夫の紹介する親分が有る、其れで人夫は前借をして行くんだ。此の前借金額は一ヶ年の內に高下が、有るから不思議だ。一月から、四月中頃までは募集を中止して居る、中頃からそろそろ工事は始まる但し雪が解けるからだ。其れで契約期間は四ヶ月で有る前借金額は、大略四十圓止まり其れは人夫其者が、手に入れる金なんだ、其の金は全部酒色に費消してしまふんだ、前借金額は一月ごとに十圓以上づゝ上つて行くのです、最高額月は八月中頃までが最高潮なんです八月の三、四日時分ですと、前借金額、百三十圓位です其上契約規限は二ヶ月なのですから此の時分は「タコ」の書入れ時なんです、だから此の月には三、四ヶ所位買るんです買ると云ふと一寸變だが實は四ヶ月の契約でも、二ヶ月の契約でも「タユ」には其んな事はどうでもいゝんです一文でも多く金が費ひたいんだから、一ヶ年の契約したつて相手方の「スキ」を覗つて翌日でも逃げて來るのだから此の脫走が困難な丈けまた興味が有るんだ、追々俺の脫走八回の內最も劇的なるのを四ッ計り話すから、ゆつくり讀んでもらをうか——話が脫線しちやつた、要するに「タユ」は女郎の樣に身を賣るんだ、女郎は親の爲めとか家の爲めとか云ふんだが此の「タユ」さんは自己の兒を酒色に費やして了ふ處から命名したのです。

「タユ」は一ヶ年を八ヶ月働けはいゝのだが正味勞働するのは二ヶ月位なんだ、僕は脫走の道中と酒色にふけり遊び暮すんだから北海道で遊んだらとても內地に歸る氣にやならんよ「タユ」の說明は之れで中止して「パック」の話だ、おう、みんな、アクビ、しちやいけねゝよ此れからなんだから辛棒して讀んでくれ給へ、此のパック、なる者は全部內地で募集した人夫の事なんだ俺は此の、パック、を救ひ出さうとして、すんでの事に、アノ世とやらへ、行く處だつた、此のパックの募集方法は諸君が知つて居られるから後日御望みの方があれば書くことにするから、パックが工事現場に着く頃からの樣子を書いて見よう。

パック、を募集する親分は東京に根城を有して居る、其の人物を諸君に御知らせしたいのだが、俺も以前は大小さした身、いや違つたツルハシを持つた身だから特に性名だけは秘す。で、パックは東京から來るので少くても五十人多い時は百五十人以上二百名位づゝ一團体となつて來る其れで平均十名に一人位の「送り」と云ふ奴が付いて來る此のオクリと云ふ奴は俺達の樣に、ニックネームを有する奴なんだ、でパック、は現場に到着して翌日までは極めて元氣なんだが二日三日と過ぎるともう人間の樣じやないんだ道中でも歌を唄ふし、小意氣な話をする奴、ホラ話をする何の事もない遊山にでも行く



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

氣で來るから現場に到着してから案外なので驚く其の上過激な勞働を强要されるし時間は長いし、特に此の時間の事は特筆大書に價するんだ。何朝午前四時には太陽が山の上に上るし午後の八時頃にようやく太陽が西の山陰に入るんだから俺達の樣に長年土方をして來た奴でも正味に働いたらとても續きやしないのだよ僕等は其れを知つて居るから早く脱走をするんだが之れにも呼吸が入るんだよ。だからパック、の奴等死にたいとか苦しいと殺してくれとか云ふ奴ら出て來るんだよ。もう半病人の樣になつて、ろく〳〵歩行も出來ない仕事なんか、てんでシロウトだから、其の姿が丁度以前發行して居た、パックと云ふ月刊雜誌のようだから之れから出た名前なんだよ、之れで「タコ」と「パック」の話を中止して監獄部屋の内部を話そうそれでないと俺の脱走記が前後して書きにくいし俺も、進めの原稿は始めてだから。

其れで「タコ」でも「パック」でも何の事はない、一種の商品扱ひなのだ。何と成れば、北海道に、宗谷線なら、一工區から五工區までを假りに大正十三年度の工事入札によりて栗原組なりが請負として、此の人夫をば北海道の人夫募集請負業者指名して八月二十日までに、六百人とか八百人現場到着一人に付き百五十圓位で請負はするんだ。其うすると其の指名せられたる親分は北海道及び內地の人夫募集業者と結託するんだ。內地から其の七割を募集して殘り三割は北海道のタコを使用するんだ、其れでなければ工事が進まんから、タコは各部屋に於ては仕事の「リーダー」をする其れが習慣に成つて居るんだ各部屋毎に夜は夜警を置いて脫走を防ぐ夜警員は二人以上四人位迄仕事の出來ぬ其の家の子分が多く勤める。夜警員の仕事は朝人夫を仕事場に送り出す時整列させて各自番號を呼んで人員の點檢をして帳場の幹部に渡す其れから風呂水を吸み入れて自分の役を終り夜人夫の歸ると幹部が、同じく點檢して渡す其れを受け取り木戸口に錠前を下して「イロリ」に火を入れ番をする其れから暫くのを忘れたが朝の内に「ランプ」の手入れをするのです。人夫は每朝「ワラジ」を一足づゝ日用品受渡しする帳場格子に行つて之を受け取り朝食に取り掛る朝食は全部員立食で有る「ワカメ」汁に、漬物四切れで有る其れで北海道人夫、タコ、とパックは別の場所で食す。

幹部も別だ。九時に一回と一時半に一回は全員一つ場所にて食す。夕食は家に歸りてから幹部からタコかパックと云ふ順に入浴するのだ、此の夕食が最も階級が付くんだよ幹部は特別食台と云ふて一番上座に有る。

タコは上食台と云ふて其の次に座に付きパックは仕事の出來る奴が中食臺にて一番下座に付く同じパックの仲でも全るつきり仕事の出來兼る奴は下飯台と云ふて立食であるのだ。其れから食料の違ひが有んです。特別食代は酒が二合以上一升まで上食台は二合以上五合まで中食台は一合以上二合まで大食台は一合丈制限なんですけれ共全々役に立たない奴は其の酒も禁止なんです副食物は特別上食共に同じで三色四色付くし中食代は二色です下食代は一色に漬物丈けですからとても下食代の食物なんか氣の毒で見て居られんです。

次ぎは日用品の受け取り方は下食台の者は夕食後帳場格子に行きて受取るのです、其の日用品も制限があるんだから面白いや實なんか、ハギの四十匁を二ツ切にして二十匁づゝ渡すんですよ其の二十匁を一週間より早く請求する奴は仕事をしないと云ふて幹部が、燒を入れるんだよ。チリ紙は四日目位に渡すシヤツ及びモモ引なんか二ケ月毎でなければ請求する事が出來得ないんだよ。タビは二十日目位でなければ駄目冬に成ると裏に毛布の付いたタビを渡すんだよ其れは全部借金に成るからですよ何となれば奴等一人內地から親方の手に入るまで二百圓位費用を要すから其れで一日の勞働賃銀を少しく書いて見ようよ。

北海道に於ける一般人夫の賃銀は一定しては居ない。普通夫が工事場に人夫として就業する時には一日十時間の勞働にて、三圓以内が普通賃銀にて、監獄部屋に於ける勞働賃銀は七種位に區別されるのであります。

幹部は一日三圓二十錢、タコ、一日一圓九十錢、が最高パックの最下は一日九十錢から八十錢止まりです。こう書いて來ると馬鹿に勞働賃銀が安いけれ共此の處に、曰くが有るんです。一寸解りにくいかも知れんか御許し下さい僕の筆が思ふように運ばんのですから。其れで最初募集屋にて契約書を差出すのです。其れにはもう全部書入れてあるんです、たゞ自己の姓名のみ記名して母印をすれば云ひわけないのです。此契約書にもタコとパックの契約書は內地の募集屋で作製するのです。契約期限は六ケ月で前借金額は二十三圓から六十圓位に記入して有りますから殘餘の百七十圓と云ふ物は六ケ月間期限を無事に勤め上ぐれば其の金は、親方が負擔するのであるから、契約書面金額だけ一ケ月勞働賃銀の内より少くづゝ差引くのです。(以下次號に續く)



Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 編輯室

### 編輯の方針に就いて

△本號より私が編輯することになりました。七八年も前から編輯を一切しなかつたが久し振りでまた編輯に携はることになつたから、編輯上の一切の責任は私が引受けるのだから、執筆者諸君や、讀者諸君は遠慮なく批評し、御指導を願ふ。

△私の編輯方針は、野心家や、賣名家の原稿は一切依頼もせず載せない考へです。なるべく地方の熱心な、同志の寄稿を歡迎し、篤學眞摯なる、眞理を討究する學者の寄稿も歡迎する。都會の野心家の文章は甘いことは甘いが魂が這入つて居ない、地方の有爲なる青年は文章が拙くとも、赤色の結晶である。

△來年から殊に依つたら頁數を二十頁位殖やして（定價は依然として十錢）やつて見たいと今計劃中です。

△進めは勞働組合や思想團体の機關紙ではない。全無產階級の機關紙たらしむるべく努力する。

△これまで野心家や賣名家の出した雜誌や文章を讀まれて得た所は少しもなかつたらうと思ふ。私はレニンを偉大なる革命家と尊敬するが、レニンの言ふことなら何でも賛成し、レニンの小便までも呑まふとは思はない。レニンの說の取るべき點はとり捨つべきは棄てる。マクドナルドを立派な政治家と認めるが革命家とは思はない。レニン死しマクドナルド政權を執るや直ちにレニンを捨てマクドナルドに右傾し讃美する日和見主義者ではない。二十年來社會運動の趨勢を見た私は、野心家共が、無政府主義に行き、サンヂカリズムに傾きソエピアニズムを謳歌し、レーニンズムに走り、思想的節操のなき彼の野心家共の醜態を視て居て、大事を俱に謀るに不足と久しく考へて居る。堺君が片山先生を罵しつて「片山君は學問もなし人物が小さい」と言つて居るが、私は片山先生程の社會主義者は日本にないと思ふ。私は親しく片山先生に接して居たから先生の偉大な人格を敬慕するものである。堺君の片山氏非難は當つてゐない。堺君が片山氏を日本社會黨から除名し、經濟的に壓迫を加へたのに片山氏は此の事に就いて一言の不平も發せられなかつた。片山氏は堺君のやうに陰險でない、伶麗玉の如き精神と光風霽月の如き偉丈夫であつた。嘗つて此のことを本誌第一卷第一號に書いた所、北原が堺君に遠慮して削つて了つた。

△片山先生は節を賣る野心家ではない。先生今日本に在らば、全土に光明を與へたであらう。海の彼方に對して、先生の姿がうかぶ。

△私の編輯方針は一派一流に偏せず全無產階級のために「進め」を編輯して行くのだから一部小數の野心家の不利益となることもあるかも知れないが、決して、全体の不利益を謀るが如き野心は斷じてない。今後此の方針で遠慮なくやつて行く。

△團体や、組合の廓清、改造等に對して他の雜誌が憚る如き物でも全無產階級總体の利益に合致する時は容赦なく掲載する、併し野心家の團体破壞策略なりと思ふ時は沒書にする。

△「進め」は只漫然として進めと言はぬ。社會改造の目標へ向つて自覺と團結を成さしめ此れに向つて急進せしむるのだ。

△右顧したり左眄したり、躊躇したり狼狽したり、日和を見たり、不見識極まる如き態度は、やらない。これも讀者諸君に言つておく。（福田）

### 校正を了へて

△禁止また禁止、ある方面では大阪府の警察部が進め追拂ひの策略だとの噂もある。さうなればこちらも意地だ。石に噛り附いてもやり通さねばと云ふ氣になる。

△十一月號はぜひ、二十日までに原稿を印刷所へ廻すつもりで諸方面へ無理なお願ひをした。で愈々二十日に編輯を終へて見ると、印刷所の方で機械が動かないと云ふ始末だ。

△止むなく他の印刷所へ持つて行くとそこでも、今度は職工がストライキ見たいなことをやつて仕事が出來ない。

そして方々持ち廻つた末、やつと、二十八日になつて新しい印刷屋でやらせることに決定した。

△こんな風で、印刷所によつて活字が違ふのでその都度に、編輯をやり直すと云ふ騷ぎだ。そのため頗る見苦しいものが出來上つたのは、殘念である。

△今度は成る丈け、禁止されまいたゝ、遠慮した點も多く、いゝ原稿で發表を見合はしたものが二三あることを寄稿者並に諸君へお詫びする。また後から後から集つて來る原稿のことだから、澤山、次號へ廻すの止むを得なかつたことを許して頂きたい。（原生）


月刊 農民新聞
（一部 八 錢税五厘）
鳥取縣米子町郊外大山驛前二本木
農民組合山陰聯合會

月刊 自由論攻
（一部三十錢菊判八十八頁）
（郵税二錢）
東京市小石川區播除町三十二

ワシラノシンブン
月二回一部五錢一年一圓
大阪府南河内郡野田村大字西野四四三
發行所 ワシラノシンブン社

スパルタカス
一部五錢 税二錢
東京市四谷區愛住町七九
青年運動社

月刊 自由言論
一部二十錢一年二圓二十錢
鳥取縣松江市津田町三〇四
自由言論社

鑛山勞働者
（一部 十錢税五厘）
東京府上 込端井八
振替東京五〇五八五番
全日本鑛夫總聯合機關紙

月二回 勞働者新聞
（一部 五錢 税 五厘）
日本勞働總同盟
關西同盟會機關紙
大阪市北區西野田江成町
勞働者新聞社

月刊 土地と自由
（一部 十錢ノ税 五厘）
日本農民組合機關紙
大阪市北區西野田江成町
日本農民組合本部

吉田一著
レーニン會見記
（三十一頁 一部十錢税二錢）

松本一著
フエビヤン協會と其綱領
（四六版四六頁一部十八錢税一錢）
東京市外駒澤村七三
民衆運動社

勞働者讀本第一編
野田律太著
勞働者の明日
定價 十錢 送料 二錢
大阪市外鷺洲町海老江九五五
勞働問題研究所
飯石登市

◆社會主義　圖書雜誌
◆社會問題　パンフレット
◆勞働問題　リーフレット
◆婦人問題　販賣店

# 上西書店

神戸市湊川町二丁目十六番地
支店湊川公園前百貨店廿一號

---

金
銀
白
金

# 徳力本店

東京市神田區松田町

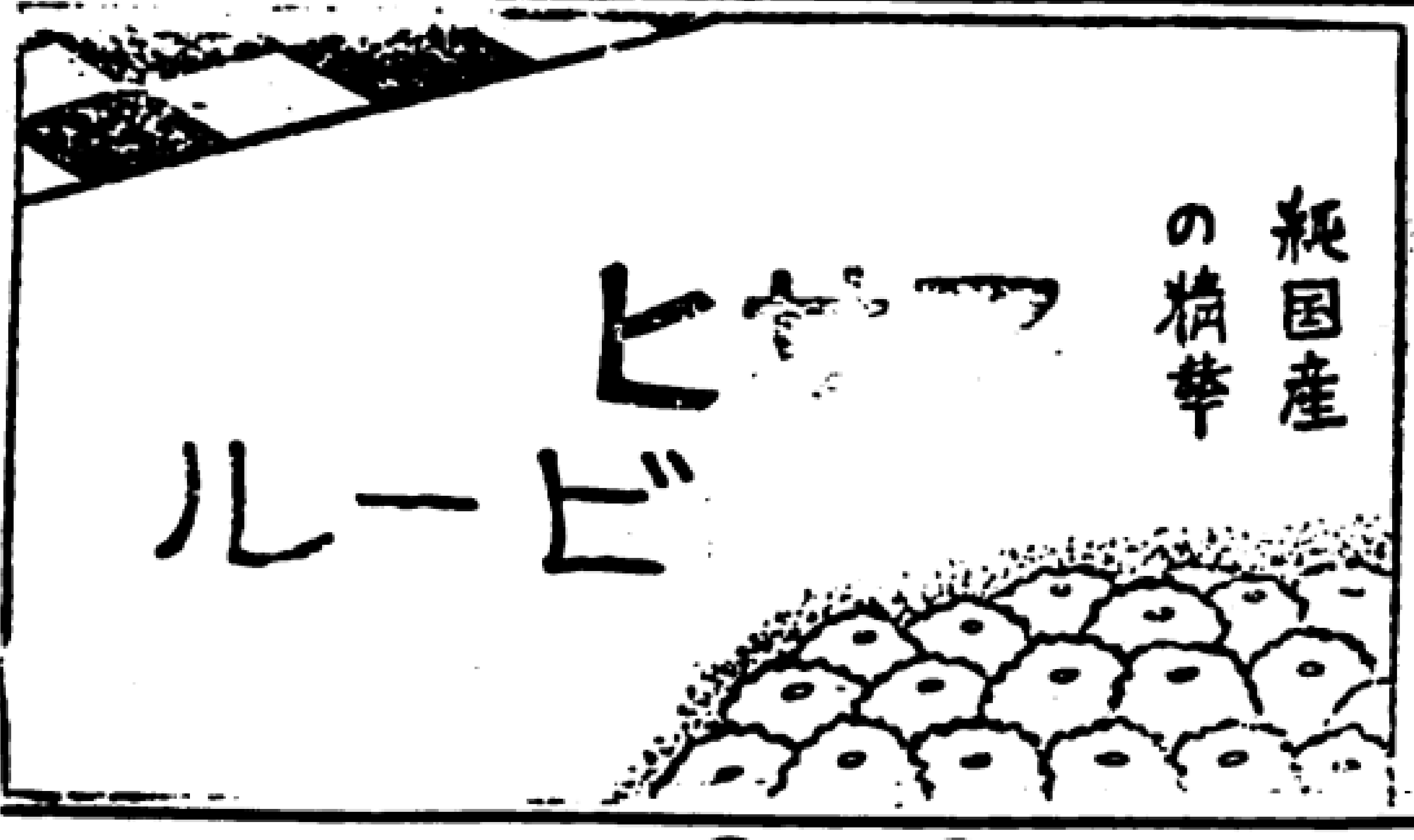
---

新古
社會主義　雜誌
勞働問題　パンフレット
迅速叮嚀にお需に應じます
「進め」大賣捌所

# 友愛社

大阪市北區江成町二九二
大島眞一

---




---

# 第三回公開 大講演會

▲十一月廿九日（土曜）午後六時より
▲芝公園協調會大講堂にて
▲聽講料　金參拾錢
▲講演及演題

◎各文藝思想家の哲學的批判　千葉龜雄
◎大戰後の文藝思想　秋田雨雀
◎平和思想の檢討　松下芳男
◎婦人と社會主義　佐野袈裟美
◎産兒制限の社會的意義　馬島僴

日本フエビアン協會主催

---

## 科學思想普及會好評書

佐野學著　農村問題（定價六十錢　送料九錢）
山川均田所照明共編　プロレタリア經濟學（定價十七錢　送料十一錢）
大山郁夫著　民族鬪爭と階級意識（定價七十錢　送料十一錢）
赤松克磨著　勞働組合運動（定價七十錢　送料十一錢）
安部磯雄著　社會主義の時代（定價七十錢　送料十一錢）
山川菊榮譯　カンペンター戀愛論（定價一圓二十錢　送料十三錢）
北澤新次郎著　社會改造の諸思潮（定價六十錢　送料九錢）
日本勞働總同盟出版部編　日本勞働總同盟第十三年大會　議事錄（定價一圓五十錢送料十三錢）
安部磯雄著　土地國有論（定價五十錢　送料九錢）

東京小石川高田町二三
# 科學思想普及會
振替東京四四三八八

---

# 討閥完成號

十一月一日發行
# 未來と青年
菊版三十頁　一部五錢　税二錢

執筆者
平岩巖
福中巧
吉田一
岡陽之助
福田狂二

東京市外世田ヶ谷若林六九
# 未來と青年社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

仁は人の安宅なり

義は人の正路なり

進め社法律顧問

赤坂表町一丁目一番地（辨慶橋前）

辨護士
辨理士
法學士

久保山武雄

電話高輪五〇五四番

サン瓦斯入電球

電氣が少しで
丈夫で明るい

良いものは
結局お徳

大阪市外大仁七〇
**大阪電球株式會社**

電話土佐堀 二一六〇 三一六一 三八二一 三八二二

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

The Su-su-me. -Socialists Monthly.-
Head office Yebie Nishinoda Osaka

# ◇「進め」讀者の必ず備ふべき社會勞働運動百科寶典◇

## 豫約募集

日本勞働總同盟出版部
産業勞働調査所 共編

### 大正十四年 勞働日記

◉勞働日記 は勞働者、特に勞働組合員のために特別に編纂した日記帳である。

◉勞働日記 は先づ、毎月始めに内外の勞働日誌を掲げ、附錄として勞働者にとつて必要な法律、勞働者及勞働組合數統計、世界各國勞働組合勢力對照圖を載せ、全國百六十有餘の勞働組合、勞働運動關係諸團体の所在地を添ふる等、勞働者として必ず心得おくべき事項は細大洩らさず掲載してゐる。

◉今後勞働運動の事務益々多端ならんとする時、組合員は必ず「勞働日記」一本をポッケットにおさめておく必要がある。

一ポッケット型上等クロース製
一堅牢美麗提帶に便
一定價郵稅共五拾錢
一本年十一月中旬發行

### 大正十四年 勞働年鑑

◉勞働年鑑 は過去現在に於ける我國勞働運動の正確なる記錄である許りでなく、亦た無產階級運動の全局面に亘る鳥瞰圖である。

◉從來此種の年鑑が多く世に現はれたが、我國勞働運動の狀勢を眞に勞働者の立塲から書かれた年鑑は本「勞働年鑑」を以て嚆矢とする。

◉勞働年鑑 は經濟、政治、法律、社會等、苟も勞働運動に關する事項を擧げて一切、簡明に說述した勞働問題百科全書である。

◉されば「勞働年鑑」一巻を備ふれば、隨時必要に應じて我國勞働運動の實狀を居乍らにして知る事ができる。

一四六版九ポイント
一定價壹圓五拾錢
一但シ勞働組合員ニ限リ壹圓貳拾錢
一明年一月下旬發行

發行所 日本勞働總同盟出版部
東京市芝區三田四國町二

申込所 産業勞働調査所
東京市麹町區內幸町一ノ六第三東鳴倶樂部
振替東京六七八一九番

---


賜る に便利 而して重寶

商品券

御進物には是非此れを!!
金壹圓以上は箱入こしまして至極体裁よく調製致します

東京・大阪 本支店及び大阪梅田、神戸、東京各出張店の共通で御座います

白木屋呉服店


## 營業品目

呉服　木綿　半衿帛紗　風呂敷　夜具布團　蚊帳　御祝飾品　洋服　外套　コート　婦人服　洋服　附屬品　帽子　ステッキ　洋傘

ショール　シャツ　ハンカチ　靴鞄　貴金屬　時計　美術品　化粧品　藥品　小間物　袋物　下駄、傘　子供洋服　子供用品　文房具　玩具

運動具　和洋樂器　蓄音機及　レコード　書籍雜誌　寫眞機及　材料　茶鰹節　菓子　食料品　和洋酒　和洋食器　和洋家具　電氣器具


大正十二年一月三十日第三種郵便物認可　毎月一回　定價一部十錢（税五厘）半年六十錢　一年一圓（送料共）　發行所　大阪市外鷺洲町海老江一〇七八　進め社



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN